臺灣日日新報 夕刊
十二月二十八日
夕刊定價一部二錢
編輯兼發行人 佐々木[illegible]
發行所 臺北市榮町四丁目 臺灣日日新報社
基隆支局 臺中支局 臺南支局 花蓮港支局 大阪支局 東京支局

銘酒 楓白鹿

[illegible]重大問題

ソ聯の非文明的な不當行爲頻發
日本が注意喚起

【東京二十八日發同盟】外務當局は二十七日在京ソ聯大使館に對し最近頻發するソ聯の文明國とは認め難い不當行爲につき左の如く注意を喚起すると共に適當善處方を嚴重要請した要旨左の通り

一、浦鹽帝國總領事館においては杉下總領事以下近來病人續出しつゝあるがソ聯人醫師は帝國總領事館への往診は不可なりとて來訪せず、外交代表を通じて交渉するも必要に應じて醫師を得る如き極めて困難なり、斯の如きは誠に人道上由々しき重大問題と云ふべく、外務省は獨り浦鹽のみならず、其他の地において最善の醫療施設が帝國臣民の爲め隨時提供せらるるに至るやう在京ソ聯大使館の配慮方を要請するものなり

一、東京にて療養中なりし[illegible]副領事は杉下總領事の病狀が一日も早く醫療的手段を必要とするに至れる爲め急遽赴任する事となり在京ソ聯大使館に必要なる手續きを依頼したところ、同副領事は既にソ聯入國査證を有し居り單に期限の延長を必要とするのみなりしに拘らず、同大使館は本國に請訓中なりとて延長を許可せず、外務省より前記緊急の事情を説明して特に便宜の取計ひ方を依頼したるも遂に應ぜず、爲めに同副領事は廿六日敦賀發の便船にて出發する事不可能となれるが、外務省は右につき遺憾とすると共に次便船には必らず間に合ふやう手續き方を依頼するものなり

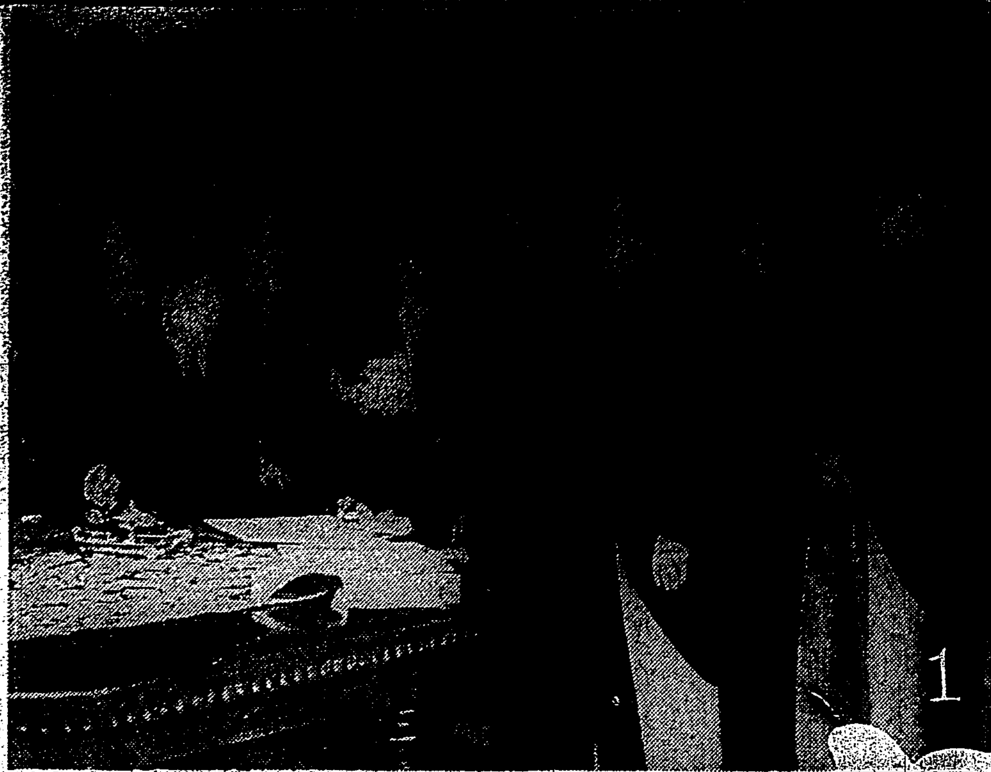
一、在浦鹽帝國總領事館は水道敷設方に關し數年來ソ聯官憲と交渉中なるも容易に埒明かず、已むなく飲用水は支那人水商より購入し居るところ十一月二十日頃より同支那人は總領事館への水の供給を拒絶するに至れるを以て同館より同地外交代理に對し更に交渉せる結果漸やく數日中に總領事館に水道を敷設するやう斡旋すべしと述べたるも今日迄實現せず、帝國外務省は右約束通り近く能ふ限り速かに水道が合理的經費にて敷設せらるるやう在京ソ聯大使館の配慮方を要請す

ソ聯側が新提案
我方極度に憤慨
漁業條約改訂に支障

【東京二十八日發同盟】日ソ漁業條約改訂交渉は暫定協定の失效前にして我方數次の正式調印督促に依り漸く情勢の好轉を傳へられつゝあつたところ、其の後の情報に據ればソ聯側は昨年十月假調印を了した改訂條約に對しては一ヶ年を經過せる諸般の事情の變化に依り正式調印は同意し難い從つて現在の情勢下に更めて改訂交渉の商議に入る用意を有し且下立案を急いでゐるので近くこれを提示する方針である旨の申出でを爲した由で、ソ聯側の新提案を繞つて今後の事態は頗る注目されるに至つたが改訂交渉に對し正式調印即時締結の主張の下に當局を督促し來つた露領水産組合はこの情報に極度に憤慨し昨年十月假調印を了した改訂條約は當時我方としては甚だ不滿足なる條件を忍んだものであり、今次のソ聯側新提案が假令如何なる條件を提示するにせよ改訂條約が既に帝國政府の御裁可を經た今日斷じて新提案交渉には應じ難いとの見解の下に飽くまで正式調印の既定方針を堅持し、來月一日緊急評議員會を招集し、こ

輪渡碼頭を占據
憲兵分隊長が指揮して

【上海二十七日發同盟】軍特務部二十七日發表、當地憲兵分隊長の指揮の下に二十六日午前四時三十分市政府經營にかかる輪渡碼頭を占據した



三國防共協定調印式　コミンテルンの赤化破壞工作と防衞の目的の爲めに昨年十一月二十五日日獨防共協定の調印を行つたが今回一周年に際し伊太利も本協定に參加す[illegible]十一月六日伊太利外務省にて伊太利外相及び[illegible]（1）劇的調印の中の我が堀田大使（2）[illegible]（3）リッベントロップ獨大使の調印（4）調印後ベネチヤ宮殿に於ける記念撮影・ムッソリニ伊首相を中心として（左）リッベントロップ獨大使（右一人おいて）堀田大使・チアノ伊外相

斷末魔の南京
凄慘な病傷兵の呻き聲

【ニューヨーク二十七日發本社特電】ニューヨークタイムスの二十七日南京特電は斷末魔にあへぐ南京の慘狀を左の通り報道してゐる

武官を除く國府の首腦連は既に全部漢口へ引揚げて了つた、之は神速果敢なる日本軍の進撃の前には支那軍の抵抗も長くは持ちこたへられぬだらうと認めた事を物語るものだ、毎日二千乃至三千の負傷兵が前線から後送され南京市内は之が爲め大混亂を呈してゐる、負傷兵の大部分は殆ど砲彈或は爆彈の破片でやられたもので、機關銃彈を受けた者少く、小銃彈による負傷者に至つては全く皆無と云つてよい有樣で負傷兵達は口々に日本軍の砲彈爆彈の物凄いばかりの威力を物語り、日本軍の姿は全然見えないのに砲彈の雨が降りそそぐので手も足も出ないとこぼしてゐる、常州、無錫、吳興等の病院から運び出されて來た重傷者達は下關停車場のプラットホームに放置され寒風と冷雨にさらされ食料も手當もなく續々と死亡して行くと云ふ地獄繪を現出してゐるが、醫療の手當がない爲め彼等の呻き聲は殆ど[illegible]先にも聞え慘狀は全く目も當てられない

桑名少將離臺
官民多數の見送裡に

〇〇〇に榮轉した前澎湖島要塞司令官桑名少將は古莊軍司令官をはじめ官民多數の見送り裡に二十八日午前八時十三分臺北驛發當日出帆の高砂丸で赴任の途についた

河村社長歸社

河村本社長は社用にて上京中のところ二十八日基隆入港の富士丸にて歸社

木炭使用獎勵
ガソリンの代りとして

【大阪二十七日發本社支局特電】石油ガソリン燃料の缺乏を豫へられる今日、大阪府にて第四師團大阪營林局等と協力して是に木炭を以て代へんと運動となつて居る卽ち大阪府下にては飛行機、水揚機等農村で使用するガソリンは年十万ガロンに達し、その他數万台の円タク、バス、トラック等の使用するのを合すれば實に夥しいので來月始めより講演に實演に木炭使用獎勵に乘出すこととなり期待されて居る

植民地問題で國際會議招集か
倫敦一部消息通の豫想

【ロンドン二十七日發本社特電】ロンドン一部消息通は植民地問題に關する國際會議の招集を豫想し注目を惹いてゐる卽ち消息通の觀測はヒトラー、ハリファックス會談の中心がドイツ舊植民地返還要求にあつた事は疑ひを容れないが右會談に鑑みドイツの要求を考慮して英佛兩首腦はヴェルサイユ條約の植民地條項改訂に關する特殊の國際會議の招集に同意するかも知れないと云ふにある、外交界一部では右觀測を行き過ぎとし兎も角佛國政府では當然ドイツの植民地要求が討議されるだらうがドイツに對し植民地市場の門戸開放を行ふか原料購入のクレジットを附與するかせい／＼の[illegible]だらうと見てゐる

獨伊兩大使招待會

近衞首相は二十一日正午首相官邸に駐日獨大使ディルクセン氏、駐日伊太利大使アウリッチ兩氏を招き日、獨、伊防共協定成立祝賀會を催した（寫眞中央は近衞首相其の右左が伊、獨兩大使）

海關問題につき日本に申し入れ
英政府が半公式發表

【ロンドン二十七日發同盟】英國政府は駐日大使クレーギー氏をして英國は海關收入を擔保とする支那外債の[illegible]について[illegible]交渉を殘くることを必要とするとの立場を堅持するものなることを日本政府に疑念の餘地なく明確に通達せしめた旨二十七日半公式に發表した、右に關しては米、佛兩國政府も同一利害關係にある爲め今日まで數次に亘り協議を重ね[illegible]日本政府に明確な意思表示を爲すに決したが主唱者は元より英國である、英國がかかる手段を執つた裏面には單に海關擔保の關係だけでなく英國の對支貿易地位の擁護として飽くまで海關行政を保持せんとするの意志が伏在してゐるが日本が若し海關擔保の元利支拂保證をすれば英國は日本に觸手を入れる口實がなくなり問題は相當デリケートとなるだらうと見られてゐる

硫安販賣會社創立總會

【東京二十八日發同盟】二十六日の硫安販賣會社創立總會において定款の附議承認を得たが社長に[illegible]氏を選定した

棉花、綿絲、綿布
最高標準價格
綿業委員會で決定

【東京二十七日發同盟】商工省で二十七日の綿業委員會で來週中の棉花、綿絲、綿布の最高標準價格につき協議の結果左の如く決定發表した

▲棉花現物標準價格 [illegible]

▲綿絲標準價格 [illegible]

△綿布標準價格 [illegible]

その日その日

南京を中心に、附近一帶は激戰の雨、地上の兵士も亦[illegible]で首都めがけて殺到――

○

いよ／＼首都攻防戰の大舞台に入る。勝者と敗者と[illegible]との跡か、なる展開が待望される

○

北平占據の跡には、然して反共反國府の自治政府が成立、離れゆく支那民心の自然的歸趨

○

蔣介石を未だ頼りにしてゐる日本の外交官がある。これだから彼もナマ半かな結果しか得られないよ

○

ソ聯が、スペインへチョッカイかけるつもりで支那へ手を伸ばしたら大變なこと、ソレとコレとは四圍の事情がテンで違ふ

○

南風ではず――で無しに、ソ聯の赤い風ではずである。この世界を吹く風の色を見るが宜い

○

色々と宣し替へては大騒ぎする英國の撤支態度、團子に乘り過ぎると化粧しようぞ

○

台灣の“緑化”に異變が來て、パルプその他“時の潮”に乘つたものが續々出現、移る、移る

○

今後の“對岸”は、避難、[illegible]だけで無く、[illegible]ひたい、正に台灣の成長

會事

▽[illegible] 二十九日午後七時半[illegible] 中西[illegible]（日本の[illegible]）尾崎秀實氏（[illegible]）

人事

▲入江勇二氏（三和銀行臺北支店長）二十八日內地より歸臺、夜行にて赴任
▲方田[illegible]氏（[illegible]）二十八日內地より歸臺
▲[illegible]氏（[illegible]）二十八日來北（鐵道ホテル）

無絃琴

時も時、折も折、改めて兵役税を課すべしとの議論が頭を擡げて來た。今度の事變で出征中の兵士は、身命を賭し死線を乘り越えつゝ健鬪を續けてゐる▲國民の[illegible]三大義務中の血税たる兵役の義務が幾何円か位の兵役税で換算できべきもので無いことは勿論である、が、と言つて此の兵役の義務を免れ安閑としてゐることも國民自身氣がすまない、せめて兵役税でも課せられ、幾分でも國家に對し報ひが出來れば氣持ちも安くなるといふわけだ▲それからもう一つ兵役税の要が叫ばれる理由は、事變以後特に出征軍人等の家族に對し扶助、救濟の要望が社會の各方面から起つて來、軍事扶助法の以外に於て出來るだけ厚く遇したいとの聲が高くなつてゐるので、此資金に充てるためにも兵役税でも設けて見たら……との意向が動いてゐるやうだ。昔は二百五十円出すと兵役の義務を免除された時もあつたさうだ▲もう一つの思ひ付きの税は“子無し税”である。子供の無い親に一定の税を課さうといふのだ▲世間の親は子供の養育や教育にドノ位苦勞するか考へると、子供の無い親に多少の負擔して貰つても宜い譯である。殊に子供が無いと、兵役の義務を通して國家へ御奉公も出來ないので、兵役税の趣旨を徹底させる意味からも考へて見る必要があるやうだ。

浮標のごとき女（149）
尾崎士郎作
梁川剛一畫

悲しき人々（一八）

藥瓶を載せた小さい机の前に若い看護婦が扉の方に背を向けて立つてゐる。

「やあ、來てくれたね」

桑田はうす眼をあけてうれしさうに木谷の顔を見た。

「酒を飲んで、へべれけに醉つぱらつてゐたのが不可なかつたんだよ」

やつと聞きとれるほどの聲きのない聲であつたがベッドに近づいた木谷の手を彼はなつかしさうに握りしめた。

「――會ひたかつたよ、君に」

唇を顫はせながら苦しさうに呟くのであつた。

「どうしてお酒なんか飲んだんである？」

「飲まずにゐられなかつたんだよ――ひそかにこの數年來こつそり胸の底に蔵つておいた『永遠の女性』の幻像が、たつた一瞬間の間に壞れてしまつたといふわけさ」

「だけど――貴方の想面の中に生きてゐる女の姿はあんなに美しいぢやありませんか」

「僕もさう考へることによつて自分を慰めてゐたんだがね、しかし今は慰められもなければ夢もなくなつてゐるんだ――これから先の僕に果して自分の藝術を支へて行く力があるかどうか」

囈言のやうに言つて考へ込むやうに眼を閉ぢてしまつた。

そのとき扉を開けて看護婦が出ていつたのである。入れ違ひに三眞子が足音を忍ばせて這入つてきた。

「桑田さん」

木谷は扉の蔭からしぼりだすやうな聲で言つた。

「僕、貴方に紹介したい人があるんです」

「僕に？」

木谷はうしろに立つてゐる三眞子の方を振りかへつて

「どうぞ」

と言ひながら路を譲つた。

ぼうつと眼をひらいた桑田の視野の中に三眞子の顔が明るくうかびあがつたのである。心の遠近法が乱れて――彼はしばらく遠い記憶をまさぐるやうにうつとりと見つめてゐたが、その顔にはみる／＼うちに嶮しい表情が浮んできた。

「君は――君は誰です？」

こみ上げてくる氣持をおさへて兩手をしつかり胸の上で組合せてゐる桑田の顔を上から覗きこんでゐる三眞子の眼は何時の間にか涙に濡れてゐた。

「わたし、わたし、やつと今になつて本當のことがわかりましたの――せめてそのことだけでも貴方にお傳へしようと思つて」

後ろに木谷が立つてゐるといふことなどは少しも氣にならないほど切迫した思ひで、そのまま寢台の前に跪まづいてしまつたのである。

「何を言ふんです、君は？」

彼女の顔とすれすれに向ひ合つた瞬間、桑田の心からは、先刻まで胸を痛めてゐた憤怒と悔恨の感情か、かすれるやうに消えていつた。霧の中で出會つたときの、あの濁つた記憶よりも不思議に數年前の懷しい思ひ出だけが浮んでくるのであつた。

「僕がそんなに可哀相に見えるんですか、あなたの眼には？」

聲が途切れたとき、三眞子は思はず寢臺の方へずつと上體を乘せかけながら

「何故そんなことを仰言るんです――わたし若しお會ひできなかつたらそれでもいいと思つてゐたのよ、ただ自分がどんな思ひで暮してきたかといふことをお話したかつただけなの」

「しかし、今そんなことを言つたところで、どうにも仕方がないでせう。それよりも早く貴方の御主人の處へお歸りになつたらどうです」

「御主人ですつて――」

一途に何事かを思ひつめてゐる三眞子の眼は次第に美しい輝きを帶びてきた。

「今の私には、御主人なんか、何處にも居やしません」

氣がついてみると何時の間に出て行つたのか、木谷の姿は部屋の中から見えなくなつてゐた。

彈雨を潜り常熟へ ②

素裸の決死の勇士
彈雨下に敵前架橋
紅顔の俘虜廣西軍の少年兵

【○○にて二十日 笹盛特派員手記】十二日午後二時頃○○を出發、近らしい[illegible]ない晴れだ、大根畑、人參、芋、小麥等の畑を突切つて無名部落の幾つかを通り過ぎる。處々にあがる煙、めらめらとあがる焔、敗走兵に焼き拂はれてゐるのであらうか、途中土塀に突きあたつた、クリークに沿うて曲折[illegible]が歩いて行く、處々に敵兵の屍が轉がつてゐる、まだ倒れて[illegible]も絶たないのであらう眞紅の血潮が道路に流れて瞼をひき仰向きのもの横倒しのものがゴロ／＼してゐる、それにも増して目を惹くのはクリークの水面に脚を突込んでゐる正規兵の上衣だ、戰帽も落ちてゐる、[illegible]も土に汚れてゐる、此奴等が便衣隊に早替りするのに違ひない、それも良民を裝つて脱走してしまつたのか、恥も角行くに從つて所謂に[illegible]が打捨ててあるのだ、[illegible]、徐巷等の部落を經て途中[illegible]に少憩する、記者は一軒の農家に入つた、地床の状この辺りの農家はいづれも[illegible]だ

馬占山の様 な髯を蓄へた五十がらみの中老が先生といひ傍ら床几を差出した、記者は腰を降して「お前も掛けろ」と床几を空けて指したが手を振つて遠慮する、入口の敷居のところに親子五人が腰を降してゐる、長い袖を着てゐる、頭には黒いお椀のやうな帽、息子らしい二十四五にもならうか若者を摑まへて「おい日本軍が何故來たか知つてゐるか」と問ふと曰く「支那兵が惡いからだらうと思ふ」「どうして支那兵は惡いか」と反問すると「支那兵は手當り次第何でも掠奪する」といふのだ、この辺りは水掛くクリークといふよりは小河だ、水草も豐かだ、楊柳が風情を添へ處々に紅葉せる櫨木もあつて仲々一幅の畫の構圖である、ここでは敵兵の宿泊した形跡もなかつた、[illegible]、殷家橋等といふ部落を過ぎて王巷へ着いたのが午後七時、十餘キロ歩いたわけだ、「笹盛さん」と呼ぶ兵隊さんがある、近寄ると「僕石川です、遞信部の石川です」といふ、CB團の名投手として鳴らした石川兵馬君の弟だ、[illegible]で四辺は闇となつた、上陸第一夜の宿營である、同盟の關根、細波の兩君と藁を集めて寝床を作る、夕食は殘つてゐる握飯一つ、隣室は○○班で占據、腰原大尉が部下を指揮して○○○の架設に大童だ、迫撃急にして○○班の活躍も激しい

冷たい藁の 床で「おやすみなさい」暫くすれば十四日、冷たい寝床であつたが眠りは深い、「おい出發だ、起きろよ」と叩き起されたのが午前八時十分、既に[illegible]部隊は出發して[illegible]、兵はリュックサックを背負つて立つてゐる、水筒の水を一口飲んだだけで十分間に出發した部隊の後を追ふ、靄が深くて視界僅かに五米、左右前後何も見えない、盲目前進一時間[illegible]て來た、梅李鎭へ向つて進む、行くこと四キロ、[illegible]が報告に飛んで來た、前面一百米の[illegible]ゐるとの報だ、直ちに部隊は前進、機關銃が唸り出した、[illegible]畑の中を突切つて[illegible]「シュッ、シュッ」と飛んで來る、土饅頭の陰に身を避ける、空腹を訴へはじめた、[illegible]まだ朝飯を食つてゐないのだ、仕方がないゴソ／＼と畑の中へ這ひ出して

大根と人參を 取つて來る、洗ふ水もない、ナイフで泥まみれの皮を削つて餓を凌ぐ、戰鬪一時間餘、敵は脆くも潰走してしまつた、又前進だ、記者は[illegible]一等兵（台南[illegible]試驗所技手）と話し合ひ乍ら進む、稍々大きなクリークに沿うて行く事一キロ、クリークが左へ折れてゐるその角に竹藪がある、そこに差掛つたときパンパンパンと[illegible]の音、[illegible]がシュッと掠めた、[illegible]だ、[illegible]ずにドンドン進んで橋を渡ると前面一キロに一軒屋が見える、その一軒屋り手前五百米位の地點にかかつたとき左側から今度はパパパと機關銃の猛射を浴びせかけられた、シュッシュッシュッと引きりなしに彈丸の洗禮だ、右手の方からも打ち出した、シューシューンと飛んで來る、ところが不思議にあたらない、まだ當つては助からない、どうやら一軒屋に[illegible]ついたが最後の五十米は堪らなくなつて走り出してしまつた、一軒屋の屋根にあたつた彈がパチパチと音を立てる、樹の葉がバサッと吹飛んだ、その中にあつて織田部隊の工兵が敵前架橋だ、○隊長の命令が下つた

決死の勇士 十餘名が裝具を脱いで襯衣一枚下帯一つの裸となつた、彈雨の中を橋走りにスッ飛んでゆく、實に壯絶といはんか勇敢なものだ、二十分程したら橋が架設された、永津部隊がクリークを渡つて突撃して行つた時餘にして前面の敵は敗走してしまつた、この戰鬪で敵兵四名を俘虜とした、一名は紅顔の少年だ、年を訊くと十七歳だといふ、俘虜の言によつて前面の敵は廣西方面から逃げて來た第四十八師の部隊だといふことが判明した、廣西軍の兵だ、兵となつて九ケ月目[illegible]下の兵だけに訓練されるとき[illegible]立不動の姿勢で答へる、記者がカメラを向けるとキチッとまた不動の姿勢を取つた

（上）鹵獲せる敵の發動機船を使用して活躍する織田部隊○○兵（下）常熟附近の支那軍トーチカ（向ふ岸に見える土饅頭の様なのがトーチカである）

高射砲彈炸裂の中を
荒鷲・鎭江驛を大爆撃
雪雲衝いて 陸軍機に同乘

【○○基地二十七日發本社特電】[illegible]の鎭江驛の[illegible]に[illegible]を許された記者は[illegible]○○機で二十七日[illegible]二時二十分基地を離陸した、[illegible]れ込み、なかなくの[illegible]二十[illegible]の本機が右に[illegible]○○台員へ

一路鎭江へ [illegible]に[illegible]つた[illegible]入[illegible]を見[illegible]下だ、○○班の[illegible]して身に沁み指先がしびれて[illegible]い翔びで飛ぶ、[illegible]をつつかれて[illegible]て見ると[illegible]長が紙切れを[illegible]した「[illegible]」と書いてある[illegible]として[illegible]の中を飛翔する[illegible]二十分、漸く雲が晴れて[illegible]の[illegible]地上の[illegible]が見えて來る、[illegible]の空とも思へない、[illegible]、又[illegible]が[illegible]される、[illegible]「鎭江だ」と[illegible]されてゐる、[illegible]

巨彈が見事な [illegible]を[illegible]いて[illegible]から[illegible]に突入する[illegible]と火を吐いた[illegible]グーッと押上げられる一彈二彈三彈[illegible]いまでに[illegible]命中、鎭江驛の[illegible]用[illegible]に吹き上げてしまつた[illegible]、[illegible]から眺めると[illegible]に[illegible]、[illegible]に[illegible]、[illegible]の山間に[illegible]れた[illegible]の[illegible]が並んでゐる、此の時[illegible]

白煙が間近で ビリ／＼と[illegible]が傳へたパッと開いた、[illegible]の[illegible]が[illegible]だ、音は聞えぬが白煙は次第に近付いて來る[illegible]だ、此の時許りは飛行機が[illegible]く思はれてじれつたい[illegible]江驛[illegible]が[illegible]く後になつた[illegible]の[illegible]下しホッとした、下を見下せば江陰に迫る現地上部隊の[illegible]は[illegible]の道ふ[illegible]だ、[illegible]やつて[illegible]と機上[illegible]に[illegible]を送り夕[illegible]飛行を終りて○○基地に着陸した

若人の意氣烈々
臺北州青訓の合同演習

[illegible]州青年訓練所生徒合同[illegible]二十八日未明午前三時[illegible]は[illegible]に[illegible]を[illegible]して[illegible]、[illegible]、[illegible]同七時休戰ラッパと共に演習を終了、引續き一旦に[illegible]行、演習で[illegible]れた身體を休める暇もなく全員元氣一杯で、同八時円山[illegible]の下に步武堂々と[illegible]な分列式を行つたが、古[illegible]司令官、[illegible]參謀長、石井台北市尹、加藤台北州[illegible]長等來賓として臨場、新しき時代を担ふ若人の意氣に打たれ[illegible]した

青訓の記念大會
三十六氏表彰さる

[illegible]州青年訓練所實施五周年記念大會は二十八日午前十一時から台北[illegible]ホールに於て開催、円山における分列式を終つた州下八百名の青訓所生徒、州より西田知事、[illegible]、[illegible]等參列、[illegible]、[illegible]、[illegible]市[illegible]、石井台北市尹、矢野[illegible]、大[illegible]等、小谷元之助氏等、官民多數出席の下に一同着席、[illegible]の後[illegible]州[illegible]の辭を述べ、一同[illegible]の後、[illegible]代[illegible]の後、[illegible]知事合[illegible]、生徒の[illegible]あつて[illegible]外三十六名の表彰を行ひ、西田知事の[illegible]、[illegible]に次いで來賓として[illegible]([illegible])・[illegible]の祝辭[illegible]長の祝辭、河村本社長の祝辭([illegible]代讀)あつて[illegible]を代表して[illegible]を述べ、生徒一同[illegible]を合唱し西田知事の發聲にて 天皇陛下の万歲を三唱し、正午近く盛會裡に大會の幕を閉ぢた、表彰された人々は左の通り

[illegible]青年訓練所主事[illegible]、[illegible]同山本[illegible]、[illegible]同[illegible]、[illegible]青年訓練所指導員[illegible]、同[illegible]、同[illegible]、同[illegible]、同[illegible]、同[illegible]、同[illegible]年訓練所指導員[illegible]、[illegible]口[illegible]、[illegible]同[illegible]、右者五年以上本州下青年訓練所に勤務し格別勳劳く所務の振作生徒の教導に盡瘁し其の功績に顯著なり仍て臺北州青年訓練所實施五周年記念大會に方り記念品を贈呈し之を表彰す

[illegible]、中山[illegible]、田中一二[illegible]、[illegible]

右者本州下青年訓練所の[illegible]生徒の[illegible]に[illegible]し其の功績顯著なり仍て臺北州青年訓練所實施五周年記念大會に方り記念品を贈呈し之を表彰す

[illegible]青年訓練所研究科生[illegible]田一、[illegible]同佐々木[illegible]、同第二年次生[illegible]、同第四年次生[illegible]、[illegible]同第四年次生[illegible]、同[illegible]、金[illegible]同研究科生[illegible]利一、[illegible]

同第四年次生[illegible]田一夫、[illegible]青年訓練所第二年次生[illegible]利男、同第三年次生山本[illegible]男、旭青年訓練所修了生西村正一、同有[illegible]

臺灣神社の月次祭

臺灣神社月次祭は二十八日午前九時から嚴かに執行されたが小林總督、古莊軍司令官を始め三宅台大總長、[illegible]、[illegible]、山縣、島田の各部局長に[illegible]、[illegible]、伊[illegible]、[illegible]長、[illegible]、古[illegible]主計少將、[illegible]知事、石井市尹ら官民有力者多數參拜した

由比久雄、[illegible]同井上[illegible]、[illegible]同角谷[illegible]、同久保山市郎、同[illegible]横井長太郎、基隆同[illegible]、右者青年訓練の本旨を體し勉勵特に[illegible]なり仍て臺北州青年訓練實施五周年記念大會に方り青訓特[illegible]を授與し之を表彰す

戰線の將兵に
新鮮な蔬菜を
新竹州で乘り出す

【新竹電話】新竹州では時局の重大性に鑑み北支の我將兵に新鮮な蔬菜を供給し兵士氣を旺盛ならしめんと豫ねて種々研究中であつたがこの程督府の[illegible]を得て具體案を決定した、其方法は本年一期作の裏作に州下各[illegible]改良實行小組合に割當を一組[illegible]一甲内外と[illegible]

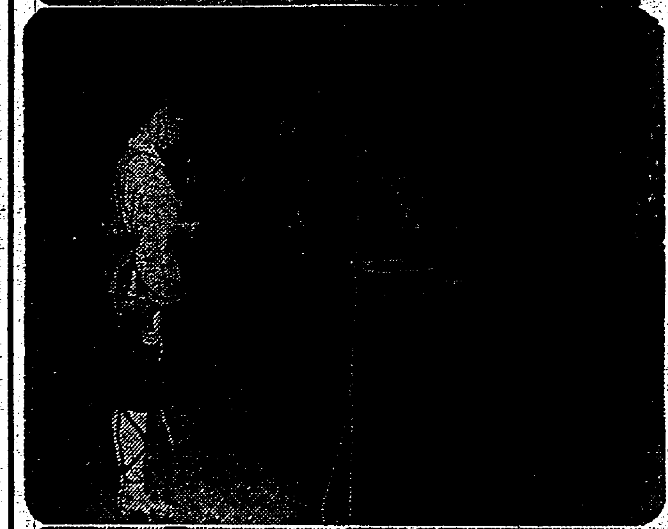
山線の開通は
來年の六月頃
隧道の開通が後れて

台中線復舊工事は今のところ順調に進んでゐるが注文中の橋梁用鐵材が來月中旬に到着する筈のところ、やや後れる模樣があるのと鐵材運搬のため必要なる苗栗トンネルの開通が豫定よりも幾分後れるらしいので五月中に全通をみることは困難とされてゐる、第七トンネルも少し後れて居り待望の山線開通は今のところ六月と云はれてゐる

し組一百員總數の五割以上に[illegible]しむる方針で面積は五十七甲歩に達する豫定である其他[illegible]的に[illegible]定地より[illegible]分に特別の努力を要せぬ程度の[illegible]を[illegible]しこの地に出來たものを[illegible]せしめるか或は[illegible]實で[illegible]り國防獻金に當てる筈である

林田大佐歸北

【新竹電話】陸軍大臣代理林田[illegible]次大佐は二十八日午前中市内の戰死者文木[illegible]兵、西松一等兵の二遺族[illegible]の後、自動車で新竹郡新埔庄へ赴き同庄出身の高[illegible]長の遺族を訪問して引返し午後二時三十分新竹驛發上り急行にて歸北した



中山中佐の遺骨郷里へ

上海戰線で護國の鬼と化した[illegible]部隊中山中佐の遺骨は夫人に護られ多數の[illegible]をうけつつ二十八日午前八時十五分台北驛發[illegible]に[illegible]

富士丸入港

【基隆電話】郵船富士丸は二十八日午前十一時過ぎつめたい冬に入つた基隆獨特の雨をついて入港した、[illegible]乘客は八百十四名、知名者は三和銀行[illegible]、台北、入江台南州支店長、[illegible]、[illegible]重役、[illegible]重役、[illegible]重役、台灣[illegible]長、[illegible]、[illegible]長、本[illegible]長の諸氏であつた

加藤課長談 外務省に對支方面との外事[illegible]合せの為め上京して來た、外務省の[illegible]を開き外務[illegible]其他[illegible]も今後それに關聯して仕事をする譯だが内容はまだ／＼天[illegible]もらすべからずだ、[illegible]と[illegible]既に決定して[illegible]

青訓實施五周年記念

（上）青訓生の分列行進（中）表彰式（下）表彰式參列者

煙草の非常時
兩切包裝の銀紙を全部蠟紙に改める

【東京二十八日發本社特電】煙草の非常時バット、チェリー、ホープ、光つばさ、曉の兩切包裝紙につき大藏省では銀紙をやめて全部蠟紙に改める事に大體の方針を[illegible]内定研究を進めてゐる、尚之と共にホープ、エアーシップ、チェリー及び光の四種の輸入煙草を來年一月から一部の輸出品を除いて製造を中止、一年約十万圓の經費を節約する事となつた

臺灣神社に參拜
皇軍の戰勝祈願
高砂族青年團の一行

高砂族青年團[illegible]出席の為め出北した全島各州[illegible]から選抜された台北州[illegible]、[illegible]青年團ユーカンサヨン團長以下五十名の青年團[illegible]は總督府理蕃課[illegible]督に引率され、二十八日午前六時市内大和町朝日館を出發沿道美化奉仕を為しつつ午前七時台灣神社に正式參拜をし、心をこめて皇軍の戰捷と武運長久を祈り、円山運動場に於ける台北州下青年訓練所生徒の[illegible]分列式に參加、動物園を見学、陸軍墓地に參拜、公會堂に於ける青年大會に參列し午後は[illegible]に於て[illegible]中佐の[illegible]を開いた、夜は[illegible]長の[illegible]に[illegible]ニュース映畫で見て山の人らしい感激を[illegible]える一方正しい時局認識を得收穫の多い一日を送つた（寫眞は臺灣神社にて）

用アナウンサー四名に[illegible]つて[illegible]に[illegible]へ送つて置いたが[illegible]百キロ放送等については私には[illegible]かかり合のない事だ、百キロ放送に關するテストは大體終つてゐるが實現については遞信部の方に聞いてくれ給へ、内地の非常時放送陣は[illegible]に強化されつくしてゐる、[illegible]百五十キロ放送の第一、第二兩局が[illegible]したが之が[illegible]正式に仕事を始める事になるともつと／＼放送陣に[illegible]を期する事が出來る譯だ

上川院長談 [illegible]で[illegible]れた第十回[illegible]に出席して來た、[illegible]の為め前程の[illegible]ではなかつたがそれでも[illegible]は[illegible]ありロックフェラー財團の[illegible]ター博士外二、三の外人の顔も見えてゐた、終了後上京[illegible]に[illegible]大[illegible]宮[illegible]から何か[illegible]で新しい治[illegible]方法の發見があつたかとの質問を受け非常に[illegible]致しました今の所完全な新しい治療方法はなく依然[illegible]からの大風子油を用ひてゐる譯で我々[illegible]研究にたづさはる者にもつと馬力をかけねばならぬと[illegible]した[illegible]の[illegible]者は[illegible]に[illegible]年[illegible]少[illegible]も[illegible]ある[illegible]の好成績で我々は内地よりも一足早く[illegible]の[illegible]を[illegible]する心算である

北原一等兵名譽の戰死

二十八日[illegible]隊の[illegible]附近に於ける[illegible]の[illegible]死者名次の通り
九月二十九日戰死、步兵一等兵北原正文（[illegible]）[illegible]町上久[illegible]一四九八）

十二月一日は
一齊に防火日
國民精神總動員で

冬近づき火が[illegible]しくなる頃いよいよ火災シーズンに入つて來たので恒例により來る十二月一日は全國一齊に防火日と定め火防宣傳が行はれるが本年は時局柄その名も國民精神總動員防火日と呼んで非常時局消費節約の折柄「一物一[illegible]」と[illegible]も灰にするな」の意氣込みの下に台北州下でも大々的に火防宣傳を[illegible]、[illegible]、學校は勿論官公署[illegible]から一般家庭に至るまで「火の用心」の徹底を期する、之がため先づ例の如く[illegible]自動車、人力車等の交通機關を利用しての宣傳、防火宣傳及び防火宣傳の映畫による宣傳を始めとして本年は午後七時半から半時間に亙つて行はれる東京中央放送局からの内務大臣の火災豫防に關する講演の中繼放送を各官公署[illegible]の一般人[illegible]に[illegible]せしめる事になつた、その他各工場では[illegible]な方法で防火講演、避難訓練を行ふ事とし[illegible]、[illegible]、[illegible]では[illegible]

引人[illegible]の一[illegible]を施行し防火注意のビラを配布する、料理屋、飲食店、カフェー、百貨店等の從業員は「火の用心」の襷、マーク、腕章を[illegible]し[illegible]をつけ[illegible]場、料理屋、[illegible]、商店等には[illegible]のレコード[illegible]を使用し火の[illegible]を[illegible]を[illegible]め[illegible]まりの[illegible]人りの防火宣傳につとめる、なほ管内の主なる官衙、銀行、[illegible]、[illegible]でも防火演習、避難訓練を實施する、この他消防組では午前中[illegible]の如く講演、防火演習に巡回する外午後一時より[illegible]内全般に亙り消防自動車その他で[illegible]をなし[illegible]前で[illegible](新元・羽衣、公會堂)前で[illegible]助演習を公開する事になつた、消防組の巡回防火宣傳[illegible]は左の如し(何れも午前)

△[illegible]小、十時から△幸小、十一時から△旭小、十時半から△第一[illegible]小、十時半から△南門小、十一時から△[illegible]小、十時から△[illegible]小、十時半から△[illegible]山公、十一時半から△[illegible]小、十時から△[illegible]小、十時半から△[illegible]、十一時から△老松公、十一時半から

臺車に突倒され見張人重傷

【基隆電話】基隆郡[illegible]庄[illegible]殿[illegible]男(二十二)は二十八日午前六時同[illegible]の[illegible]に從事し[illegible]した[illegible]にあつた[illegible]に[illegible]した為め[illegible]荷を[illegible]の台車に突倒され[illegible]

基隆市の家屋調査

【基隆電話】基隆市[illegible]では[illegible]二十七日から行はれる[illegible]部[illegible]他に[illegible]死の[illegible]を[illegible]

商法の權威
烏賀陽博士を招聘
臺北帝大文政學部に

[illegible]は北中文と[illegible]を[illegible]にしまだ日[illegible]り[illegible]い[illegible]だからない、今後之をちんとよくせねばならない、事[illegible]が落つつけば私も一度南支方面へ行つて見度いと思つてゐる、外[illegible]の[illegible]打合せも種々あるが其[illegible]も一つの問題である、既に[illegible]も[illegible]してあるし通れば[illegible]より[illegible]する譯であるが人員は大してふえない

深川理事談 理事になつて初めての上京でまごつき[illegible]を兼ねた見学と云ふ程度で[illegible]の用件等一つも持つてゐない、新[illegible]

台北帝大文政學部[illegible]中川[illegible]が担任してゐるが、南進國策の據點として益々重要性を加ふる台灣として同学の[illegible]講座は益々擴充すべきものあるに鑑み大学當局では先般來研究中のところ今度京都帝大名譽教授法學博士烏賀陽然良氏を招聘し教授として商法講座を開設する事に内定した、烏賀陽博士は京都帝大法學部を明治三十六年卒業し直ちに西戸高商教授に任じ次いで第[illegible]に留學、同[illegible]大正八年法學博士を授けられ京都帝大教授として商法を講じ昭和十一年退官、同学名譽教授、京都商工會議所顧問に推され特に商法に於ては我國の權威者である同氏[illegible]は[illegible]杉山教授退官後久しく[illegible]の[illegible]氏が兼務で講じてゐたがこれで近く赴任を請ふ事となり東北帝大法文学部の中[illegible]氏が[illegible]される模様である

とんだ田中絹代
あらゆる惡事を重ね
またく／＼基隆署に捕はる

【基隆電話】本籍[illegible]長[illegible]町[illegible]部落[illegible]居住所不定長谷川イネ(二[illegible])は田中絹代と自称し一兩年前から基隆にあらはれ飲食店、カフェーを轉々[illegible]取、御用[illegible]等女で出來る惡い事ならたいてい／＼くし今迄にも數回基隆署の御厄介になつてゐる、ところが彼女今度は御面相にも似ない結婚詐欺に轉向し社寮町の飲食店松乃屋で酌婦として働く中、去る十月はじめ某發動機船[illegible]組[illegible]長[illegible]毛[illegible]太郎(二[illegible])と假名[illegible]に結婚すると前借二百四十円を拂つてもらひ同月十九日かなり[illegible]式を[illegible]げたが翌日[illegible]太郎が出漁、十日位して[illegible]で歸つて來る迄にさつさと姿を晦ましてしまつた、他にも同様手段で二三名[illegible]した模樣で基隆署では[illegible]刑事がたまく／＼他の事件で[illegible]し取調べた事から一切が明るみにさらげ出されたもので又彼女を中心に惡の女五名が集つて種々の仕事に片棒かついでゐた事も判明し兩刑事は同時に相棒なる五名の女を[illegible]し取り調べ中である

解體中の古船から盗む
前科者の苦力

【基隆電話】基隆市[illegible]町七六番地苦力前科一犯[illegible]成(二[illegible])は去十月廿三日午後八時頃三丁目[illegible]で解體作業中の[illegible]所有の古船から[illegible]の一部を竊取したのを手始めに前後二十數回にわたり同[illegible]所有其他大久保[illegible]所有[illegible]丸、第一[illegible]丸等[illegible]中の古船ばかりをねらつて[illegible]部分品の竊盗を働いてゐたが遂にこの程古物商から足がついて基隆署[illegible]刑事の手に[illegible]された、現在判明せる被害額は五百餘円

[illegible]となり基隆市から[illegible]員十一名と[illegible]指定人十一名か何れも[illegible]を[illegible]けて出動した、右[illegible]を[illegible]する人が多いが今[illegible]共[illegible]は勿論[illegible]を所有してゐる[illegible]ら必ず十二月十五日までに申出しなければ[illegible]せられる訳である、右申告[illegible]には法人と個人は[illegible]を添付することになつてゐるが基隆では[illegible]もあり或は場合に依つては[illegible]れる心配もあるから自分で正式の手續をなし[illegible]得させる場合は必ず[illegible]依頼されたい、[illegible]の立會ひを求めず指定人以外の人に[illegible]せるのは[illegible]部に[illegible]に出て[illegible]に圖面を[illegible]くこと[illegible]法になるから充分注意されたい、[illegible]即ち右指定人は申告者に代つて[illegible]屋[illegible]の許可を得てゐることになつて居り市が司令部の良き[illegible]の下に申告者の[illegible]を計つたものであると

戰歿將士の追弔法要

あす東本願寺別院で

市内[illegible]町東本願寺別院にては二十九日午後二時より台北[illegible]支那事變の[illegible]に參加し榮ある[illegible]を遂げつつ[illegible]しく戰場の華と散つた島民將士の追弔法要を[illegible]することとなり全島[illegible]主任も參加の上嚴かに[illegible]。遺族は勿論一般有志の參列を[illegible]する由、同法要に引續き本山特派[illegible]の講演ある筈

今晩の映畫

◆大世界館 [illegible]
1 太平洋[illegible]
2 [illegible]
3 [illegible]

◆國際館 [illegible]
1 三十九夜 [illegible]
2 巨人ゴーレム [illegible]
3 [illegible]

◆芳乃館 [illegible]
1 [illegible]の夕 [illegible]
2 [illegible]
3 兄の誕生日 [illegible]
4 大[illegible]ニュース [illegible]
5 [illegible]

◆新世界館 [illegible]
1 ベビー[illegible]ニュース [illegible]
2 [illegible]大江山 [illegible]
3 百万両手[illegible] [illegible]
4 風流[illegible]氣質 [illegible]

◆タイゲキ [illegible]
1 愛に生る者 [illegible]
2 [illegible]・大朝・大毎 [illegible]
3 [illegible]

あすの天氣

北部地方 東の和風後西の[illegible]
中部地方 北東の[illegible]後[illegible]
南部地方 北の和風[illegible]
東部地方 北の和風[illegible]

會葬御禮

小坂英美

鈴木南國公司

臺灣日日新報 夕刊

十二月二十八日

夕刊定價一部二錢

編輯兼發行人 佐々木[illegible] 發行所 臺北市[illegible] 臺灣日日新報社 臺中支局 臺南支局 花蓮港支局 大阪支局 東京支局

銘酒 楓白鹿

[illegible]重大問題

ソ聯の非文明的な 不當行爲頻發

日本が注意喚起

【東京二十八日發同盟】外務當局は二十七日在京ソ聯大使館に對し最近頻發するソ聯の文明國とは認め難い不當行爲につき左の如く注意を喚起すると共に本問題の解決方を嚴重要請した要領左の通り

一、浦鹽帝國總領事館においては杉下總領事以下五十餘名入院[illegible]しつゝあるがソ聯人醫師は帝國總領事館への往診は不可なりとて來訪せず、外交代表を通じて交渉するも必要に應じて醫師を得る如き極めて困難なり、斯の如きは誠に人道上由々しき重大問題と云ふべく、外務省は獨り浦鹽のみならず其他の地においても最善の醫療施設が帝國臣民の爲め随時提供せらるるに至るやう在京ソ聯大使館の配慮方を要請するものなり

一、東京にて[illegible]領事は杉下總領事の病狀が一日も早く[illegible]を必要とするに至れる爲め急遽歸任する事となり在京ソ聯大使館に必要なる手續きを依頼したところ、同副領事は既にソ聯入國査證を有し居り單に期限の延長を必要とするのみなりしに拘らず、同大使館は本國に請訓中なりとて延長を許可せず、外務省より前記緊急の事情を説明して特に便宜の取計ひ方を依頼したるも遂に應ぜず、爲めに同副領事は廿六日敦賀發の便船にて出發する事不可能となれるが、外務省は右につき遺憾の意を表すると共に次便船には必ず間に合ふやう手續き方を依頼するものなり

一、[illegible]帝國總領事館は水道敷設方に關し數年來ソ聯官憲と交渉中なるも容易に埒明かず、已むなく飲用水は支那人水商より購入し居るところ十一月二十日頃より同支那人は總領事館への水の供給を拒絶するに至れるを以て同館より同市外交代理に對し更に交渉せる結果漸やく數日中に總領事館に水道を敷設するやう斡旋すべしと述べたる趣なり、帝國外務省は右約束通り近く與ふ限り速かに水道が合理的經費にて敷設せらるるやう在京ソ聯大使館の配慮方を要請す

ソ聯側が新提案 我方極度に憤慨

漁業條約改訂に支障

【東京二十八日發同盟】日ソ漁業條約改訂交渉は暫定協定の失效前にして我方數次の正式調印督促に依り漸く情勢の好轉を齎へられつゝあつたところ、其の後の情報に據ればソ聯側は昨年十月假調印を了した改訂條約に對しては一ヶ年を經過せる諸般の事情の變化に依り正式調印に同意し難い從つて現在の情勢下に更めて改訂交渉の商議に入る用意を有し且下立案を急いでゐるので近くこれを提示する方針である旨の申出でを爲した由で、ソ聯側の新提案を繞つて今後の事態は頗る注目されるに至つたが改訂交渉に對し正式調印即時締結の主張の下に當局を督促し來つた露領水産組合はこの情報に極度に憤慨し昨年十月假調印を了した改訂條約は當時我方としては甚だ不滿足なる條件を忍んだものであり、今次のソ聯側新提案が假令如何なる條件を提示するにせよ改訂條約が既に兩國政府の假調印を經た今日斷じて新提案交渉には應じ難いとの見解の下に飽くまで正式調印の既定方針を堅持し、來月一日緊急評議員會を招集し、こ[illegible]

輪渡碼頭を占據

憲兵分隊長が指揮して

【上海二十七日發同盟】[illegible]二十七日夜、[illegible]憲兵分隊長の指揮の下に二十八日午前四時三十分市政府經營にかかる輪渡碼頭を占據した

三國防共協定調印式

コミンテルンの赤化破壞工作と防遏の目的の為めに昨年十一月二十五日日獨防共協定の調印を行つたが今回更に同一目標にある伊太利が本協定に參加するの議運熟し遂に十一月六日伊太利外務省に於て我堀田大使とチアノ伊太利外相及びリツベントロツプ駐英獨大使との間に[illegible]調印を完了・茲に洋の東西を貫く強力なる防共陣營が成立されるに至つた。寫眞は(1)劇的調印中の我が堀田大使(2)同じく調印中のチアノ伊外相(3)リツベントロツプ獨大使の調印(4)調印後ベネチヤ宮殿に於ける記念撮影・ムツソリニ伊首相を中心として(左)リツベントロツプ獨大使(右一人おいて)堀田大使・チアノ伊外相

斷末魔の南京

凄慘な病傷兵の呻き聲

【ニューヨーク二十七日發本社特電】ニューヨークタイムスの二十七日南京特電は斷末魔にあへぐ南京の慘狀を左の通り報道してゐる武官を除く國府の首腦連は既に全部漢口へ引揚げて了つた、之は頑强果敢なる日本軍の進擊の前には支那軍の抵抗も長くは持ちこたへられぬだらうと認めた事を物語るものだ、毎日二千乃至三千の負傷兵が前線から後送され南京市内は之が爲め大混亂を呈してゐる、負傷兵の大部分は殆ど砲彈或は爆彈の破片でやられたもので、機關銃彈を受けた者少く、小銃による負傷者に至つては全く皆無と云つてよい有樣で負傷兵達は口々に日本軍の砲彈爆彈の物凄いばかりの威力を物語り、日本軍の姿は全然見えないのに砲彈の雨が降りそそぐので手も足も出ないとこぼしてゐる、常州、無錫、[illegible]等の病院から運び出されて來た負傷者達は下關停車場のプラットホームに放置され寒風と冷雨にさらされ食料も手當もなく段々と死亡して行くと云ふ地獄繪を現出してゐるが、病院の手當がない爲め彼等の呻き聲は[illegible]先にも聞えて慘狀は全く目も當てられない

桑名少將離臺

官民多數の見送裡に

[illegible]〇〇〇に榮轉した前澎湖島要塞司令官桑名少將は古賀軍司令官をはじめ官民多數の見送り裡に二十八日午前八時十三分臺北驛發當日出帆の高砂丸で赴任の途についた

河村社長歸社

河村本社長は社用にて上京中のところ二十八日基隆入港の富士丸にて歸社

木炭使用奬勵

ガソリンの代りとして

【大阪二十七日發本社支局特電】石油ガソリン燃料の缺乏を愁へられる今日、大阪府にて第四師團大阪營林局等と協力して是に木炭を以て代へんと躍起となつて居る即ち大阪府下にては瓦斯機、水揚機等農村で使用するガソリンは年十万ガロンに達し、その他數万台の円タク、バス、トラック等の使用するのを合すれば實に[illegible]いので來月始めより講演に實演に木炭使用獎勵に乘出すこととなり期待されて居る

植民地問題で 國際會議招集か

倫敦一部消息通の豫想

【ロンドン二十七日發本社特電】ロンドン一部消息通は植民地問題に關する國際會議の招集が[illegible]注目を惹いてゐる即ち消息通の觀測はヒトラー、ハリファックス會談の中心がドイツ舊植民地返還要求にあつた事は疑ひを容れないが右會談に於みドイツの要求を考慮して英佛兩首腦はヴェルサイユ條約の植民地條項改訂に關する特殊の國際會議の招集に同意するかも知れないと云ふにある、外交界一部では右觀測を行き過ぎとし寧ろ佛領話では當然ドイツの植民地要求が討議されるだらうがドイツに對し植民地市場の門戸開放を行ふか原料購入のクレジットを附與するかせいぜいその位だらうと見てゐる

海關問題につき 日本に申し入れ

英政府が半公式發表

【ロンドン二十七日發同盟】英國政府は駐日大使クレーギー氏をして英國は海關收入を担保とする支那公債關係國として支那海關行政の變革については事前に交渉を受くることを必要とするとの立場を堅持するものなることを日本政府に疑念の餘地なく明確に通告せしめた[illegible]二十七日半公式に發表した、右に關しては米、佛兩國政府も同一利害關係にある爲め今日まで數次に亘り協議を重ね兩國も日本政府に明確な意思表示を爲すに決した、が事實者は元より英國である、英國がかかる手段を執つた裏面には單に海關担保の關係だけでなく英國の對支貿易地位の擁護として飽くまで海關行政を確保せんとする意思が伏在してゐるが日本が若しば英國は愈々日本に抗議を入れる口實がなくなり問題は相當デリケートとなるだらうと見られてゐる

硫安販賣會社 創立總會

【東京二十八日發同盟】二十六日の硫安販賣會社創立總會において定款各條を承認を得た[illegible]吉田[illegible]、社長に[illegible]氏を選定した

棉花、綿絲、綿布 最高標準價格

綿業委員會で決定

【[illegible]二十七日發同盟】商工省では二十七日の綿業委員會で來週中の棉花、綿絲、綿布の最高標準價格につき協議の結果左の如く決定發表した

[illegible]

獨伊兩大使招待會

近衞首相は二十二日正午首相官邸に駐日獨大使ディルクセン氏、駐日伊太利大使アウリッチ兩氏を招き日、獨、伊防共協定成立祝賀午餐會を催した(寫眞中央は近衞首相其の右左が伊、獨兩大使)

その日その日

○南京を中心に、附近一帶は敵軍の雨、地上の烏兒(?)まで揚子江の物ひで首都めがけて殺到――
○いよく首都攻防戰の本舞台に入る。陥落と勝利と容易との餅か[illegible]なる展開が待望される
○南京占據の跡には、決つて反共反國府の自治政府が成立、舊られゆく支那民心の自然的歸趨[illegible]
○那介石を未だ頼りにしてゐる日本の外交官がある。これだから佐[illegible]かナマ半かな結果しか得られないよ
○ソ聯が、スペインへチョッカイかけるつもりで支那へ手を伸ばしたら大變なこと、ソレとコレとは[illegible]四國の事情がアンで違ふ
○南風はず――で無しに、ソ聯の赤い風はずである。この頃世界を吹く風の色を見るが宜い
○色々と起し替へては大政翼賛まる英國の援支勢術、扇子に乘り過ぎると化けじまうぞ
○台灣の"緑化"に反響が來て、パルプその他、"時の物"に乘つたものが續々出現、移る、移る
○今後の"對岸"は、發見、販路だけで無く、長山[illegible]と[illegible]開ひたい。正に台灣の波長

會 事

▽[illegible]二十九日午後七時半[illegible]、中西[illegible]發表(日本の[illegible])尾崎[illegible]氏(所長と[illegible])

人 事

▲入江[illegible]氏(三井[illegible])二十八日内地より歸[illegible]、夜行にて[illegible]
▲方田[illegible]氏(新竹[illegible])二十八日内地より歸臺
▲[illegible]氏([illegible])二十八日來北(鐵道ホテル)

★無絃琴★

時も時、折も折、改めて兵役稅を創す べしとの議論が朗かを報げて來た。今度の事變で出征中の軍人は、身命を賭し死線を乘り越えつゝ遅滯を續けてゐる▲國民の義務たる兵役の義務が[illegible]何円か位の兵役稅で[illegible]べきもので無いことは勿論であるが、と言つて此の兵役の義務を免れ唯安閑としてゐることも國民自身氣が濟まない、せめて兵役稅でも課せられ、幾分でも國家に對し償ひが出來れば氣持ちも安くなるといふわけだ▲それからも一つ兵役稅の要が叫ばれる理由は、事變以後特に出征軍人遺家族に對し扶助、救濟の必要が社會の各方面から起つて來、扶助救濟の義務はこの際が高くなつてゐるので、此際に殉ずるためにも兵役稅でも設けて見たら……との意向が動いてゐるやうだ、昔は二百五十円出すと兵役の義務が免除された時もあつたさうだ▲もう一つの思ひ付きの稅種は"子無し稅"である。子供の無い親に一定の稅金を課さうといふのだ▲近頃の親が子供の養育を放擲してする[illegible]と、子供の無い親に[illegible]し視くらゐ負担しても宜いではないか、殊に子供が無いと、兵役の義務が通して國家へ[illegible]出來ないので、兵役稅の[illegible]云ふ[illegible]から[illegible]るやうだ。

浮標のごとき女(149)

尾崎士郎作 梁川剛一畫

悲しき人々(一八)

乱れて――彼はしばらく遠い記憶をさぐるやうにうつとりと見つめてゐたが、その顔にはみるみる[illegible]ちに嶮しい表情が浮んできた。
「君は――君は誰です?」
こみ上げてくる氣持をおさへて相手をしつかり胸の上で組合せてゐる桑田の顔を上から覗きこんでゐる三重子の眼は何時の間にか濡れてゐた。
「わたし、わたし、やつと今になつて本當のことがわかりましたの――せめてそのことだけでも貴方にお傳へしようと思つて」
後ろに木谷が立つてゐるといふことなどは少しも氣にならないほど切迫した思ひで、そのまま寢台の前に跪づいてしまつたのである。
「何を言ふんです、君は?」
彼女の顔とすれすれに向ひ合つた瞬間、桑田の心からは一瞬にして脚を痺めてゐた激怒と悔悟の感情か、かすれるやうに消えていつた。酒の中で出會つたときの、あの澄み透つた瞳よりも不思議に數年前の懐しい思ひ出だけが浮んでくるのであつた。
「僕がそんなに可哀相に見えるんですか、あなたの眼には?」
声が途切れたとき、三重子は思はず寢台の方へずつと上體を乗せかけながら
「何故そんなこと仰言るんです――わたし若しお會ひできなかつたらそれでもいいと思つてゐたのよ、ただ自分がどんな思ひで暮してきたかといふことをお話ししたかつただけなの」
「しかし、今そんなことを言つたところで、どうにも仕方がないでせう。それよりも早く貴方の御主人の處へお歸りになつたらどうです」
「御主人ですつて――」
一途に何事かを思ひつめてゐる三重子の眼は次第に美しい輝きを帶びてきた。
「今の私には、御主人なんか、何處にもありません」
氣がついてみると何時の間に出て行つたのか、木谷の姿は部屋の中から見えなくなつてゐた。

い寢臺の前の小さい机の前に若い看護婦が扉の方に背を向けて立つてゐる。
桑田はうす眼をあけてうれしさうに木谷の顔を見た。
「やあ、來てくれたね」
「酒を飲んで、へべれけに醉つぱらつてみたのが不可なかつたんだよ」
やつと聞きとれるほどの聲だつた。ない聲であつたがベッドに近づいた木谷の手を彼はなつかしさうに握りしめた。
「――會ひたかつたよ、君に」
酒を飲ませながら苦しさうに喘ぐのであつた。
「どうしてお酒なんか飲んだんですの?」
「飲まずにゐられなかつたんだよ――をかし相だがこの數年來こつそり胸の底に秘つておいた『永遠の女性』の幻影が、たつた一瞬間の間に壞れてしまつたといふわけさ」
「だけど――貴方の表面の中に生きてゐる女の像はあんなに美しいぢやありませんか」
「僕もさう考へることによつて自分を慰めてゐたんだがね、しかし今は慰められもしなければ夢もなくなつてゐるんだ――これから先の僕に果して自分の藝術を支へて行く力があるかどうか」
獨言のやうに言つて彼へ込むやうに眼を閉ぢてしまつた。
そのとき扉を開けて看護婦が出ていつたのである。入れ違ひに三重子が足音を忍ばせて這入つてきた。
「桑田さん」
木谷は傍の椅子からしぼりだすやうな声で言つた。
「僕、貴方に何か伝へしたい人があるんです」
「僕に?」
木谷はうしろに立つてゐる三重子の方を振りかへつて
「どうぞ」
と言ひながら席を譲つた。
ほうつと眼をひらいた桑田の視野の中に三重子の顔が明るくうかびあがつたのである。心の遠近法が

臺灣日日新報 夕刊
十二月二十八日
夕刊定價一部二錢
編輯兼發行人 佐々木[illegible]
發行所 臺北市[illegible] 臺灣日日新報社
基隆支局 臺中支局 臺南支局 花蓮港支局 大阪支局 東京支局

銘酒 楓白鹿

當面の重大問題

ソ聯の非文明的な 不當行爲頻發
日本が注意喚起

【東京二十八日發同盟】外務當局は二十七日在京ソ聯大使館に對し最近ソ聯の文明國とは認め難い不當行爲につき左の如く注意を喚起すると共に至急善處方を要請した要旨左の通り

一、浦鹽帝國總領事館においては杉下總領事以下五名病人續出しつつあるがソ聯人醫師は帝國總領事館への往診は不可なりとて來訪せず、外交代表を通じて交渉するも必要に應じて醫師を得る如き極めて困難なり、斯の如きは誠に人道上由々しき重大問題と云ふべく、外務省は獨り浦鹽のみならず、其他の地において最善の醫療施設が帝國臣民の爲め遅滞なく提供せらるるに至るやう在京ソ聯大使館の配慮方を要請するものなり

一、東京にて勤務中なりし浦鹽副領事は杉下總領事の病狀が一日も早く歸任を必要とするに至れる爲め急遽赴任する事となり在京ソ聯大使館に必要なる手續きを依頼したところ、同副領事は既にソ聯入國査證を有し居り單に期限の延長を必要とするのみなりしに拘らず、同大使館は本國に請訓中なりとて延長を許可せず、外務省より副領事の急の事情を説明して特に便宜の取計ひ方を依頼したるも遂に應ぜず、為めに同副領事は廿六日敦賀發の便船にて出發する事不可能となれるが、外務省は右につき強硬に抗議すると共に次便船には必らず間に合ふやう手續き方を依頼するものなり

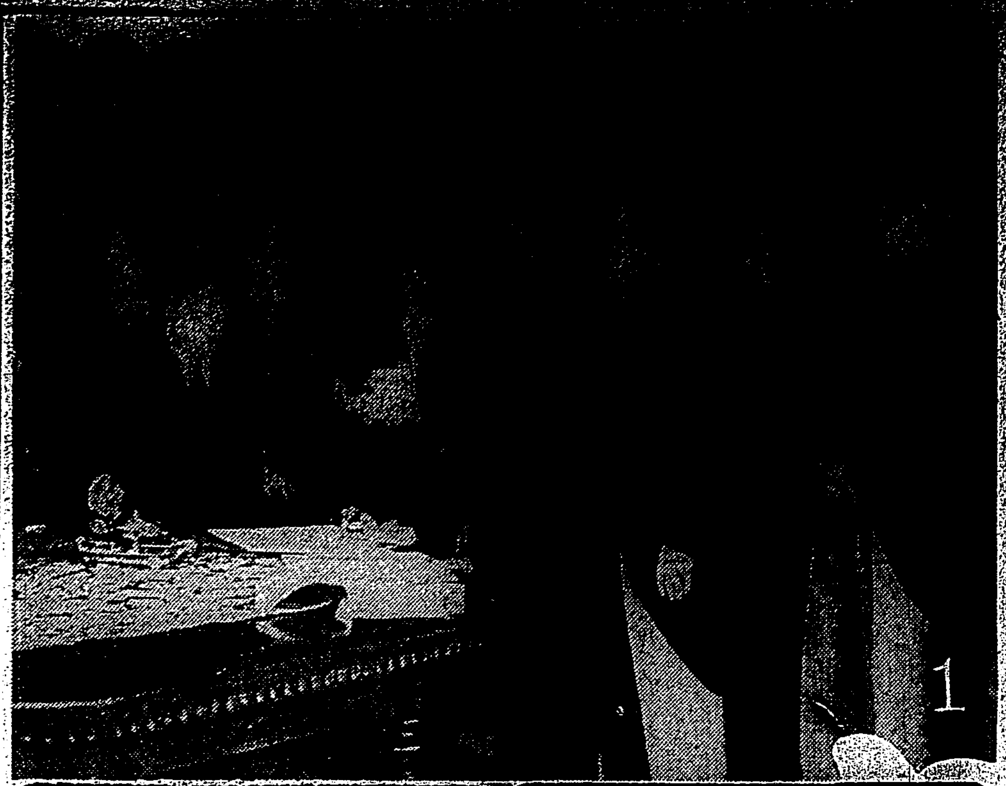
一、在[illegible]總領事館は水道敷設方に關し數年來ソ聯官憲と交渉中なるも容易に埒明かず、已むなく飲用水は支那人水賣りより購入し居るところ十一月二十日頃より同支那人は總領事館への水の供給を拒絶するに至れるを以て同館より同市外交代理に對し更に交渉せる結果漸やく數日中に總領事館に水道を敷設するやう斡旋すべしと述べたるに拘らず、[illegible]帝國外務省は右約束通り近く與ふ限り速かに水道が合理的經費にて敷設せらるるやう在京ソ聯大使館の配慮方を要請す

ソ聯側が新提案 我方極度に憤慨
漁業條約改訂に支障

【東京二十八日發同盟】日ソ漁業條約改訂交渉は暫定協定の失效前にして我方數次の正式調印督促に依り漸く情勢の好轉を傳へられつつあつたところ、其の後の情報に據ればソ聯側は昨年十月假調印を了した改訂條約に對しては一ヶ年を經過せる諸般の事情の變化に依り正式調印は同意し難い從つて現在の情勢下に更めて改訂交渉の商議に入る用意を有し且下立案を急いでゐるので近くこれを提示する方針である旨の申出でを為した由で、ソ聯側の新提案を繞つて今後の事態は頗る注目されるに至つたが改訂交渉に對し正式調印即時締結の主張の下に當局を鞭撻し來つた露領水産組合はこの情報に極度に憤慨し昨年十月假調印を了した改訂條約は當時我方としては甚だ不滿足なる條件を忍んだものであり、今次のソ聯側新提案が假令如何なる條件を提示するにせよ改訂條約が既に帝國政府の御諒議を經た今日斷じて新提案交渉には應じ難いとの見解の下に飽くまで正式調印の既定方針を堅持し、來月一日緊急評議員會を招集し、こ[illegible]

輪渡碼頭を占據
憲兵分隊長が指揮して

【上海二十七日發同盟】南特務部二十七日發表、[illegible]憲兵分隊長の指揮の下に二十六日午前四時三十分市政府經營にかかる輪渡碼頭を占據した



1

3

2

4

三國防共協定調印式 コミンテルンの赤化工作防遏の目的の為めに昨年十一月二十五日日獨防共協定の調印を行つたが今回更に一周年目に際しある伊太利の本協定に參加するの機運熟し遂に十一月六日伊太利外務省に於て我が堀田大使とチアノ伊太利外相及びリッペントロップ獨逸駐英大使との間に調印を完了・茲に洋の東西を貫く強力なる防共陣營が成立さるるに至つた。寫眞は(1)劇的調印中の我が堀田大使(2)同じく調印中のチアノ伊外相(3)リッペントロップ獨大使の調印(4)調印後ベネチヤ宮殿に於ける記念撮影・ムッソリニ伊首相を中心として(左)リッペントロップ獨大使「右一人おいて」堀田大使・チアノ伊外相

斷末魔の南京
凄慘な病傷兵の呻き聲

【ニューヨーク二十七日發本社特電】ニューヨークタイムスの二十七日南京特電は斷末魔にあへぐ南京の慘狀を左の通り報道してゐる
武官を除く國府の首腦連は既に全部漢口へ引揚げて了つた、之は神速果敢なる日本軍の進撃の前には支那軍の抵抗も長くは持ちこたへられぬだらうと認めた事を物語るものだ、毎日二千乃至三千の負傷兵が前線から後送され南京市内は之が為め大混亂を呈してゐる、負傷兵の大部分は殆ど砲彈或は爆彈の破片でやられたもので、機關銃彈を受けた者少く、小銃彈による負傷者に至つては全く皆無と云つてよい有樣で負傷兵達は口々に日本軍の砲彈爆彈の物凄いばかりの威力を物語り、日本軍の姿は全然見えないのに砲彈の雨が降りそそぐので手も足も出ないとこぼしてゐる、常州、無錫、呉興等の病院から運び出されて來た重傷者達は下關停車場のプラットホームに放置され寒風と冷雨にさらされ食料も手當もなく陸々と死亡して行くと云ふ地獄繪を現出してゐるが、醫藥品の手當がない為め彼等の呻き聲は[illegible]先にも聞え其慘狀は全く目も當てられない

桑名少將離臺
官民多數の見送裡に

〇〇〇に榮轉した前澎湖島要塞司令官桑名少將は古莊軍司令官をはじめ官民多數の見送り裡に二十八日午前八時十三分台北驛發富士丸の高砂丸で赴任の途についた

河村社長歸社

河村本社長は社用にて上京中のところ二十八日基隆入港の富士丸にて歸社

木炭使用獎勵
ガソリンの代りとして

【大阪二十七日發本社支局特電】石油ガソリン燃料の缺乏を愛へられる今日、大阪府にて第四師團大阪營林局等と協力して是に木炭を以て代へんと運動となつて居る即ち大阪府下にては統制機、水揚機等農村で使用するガソリンは年十萬ガロンに達し、その他數万台の円タク、バス、トラック等の使用するのを合すれば實に[illegible]しいので來月始めより講演に實演に木炭使用獎勵に乘出すこととなり期待されて居る

植民地問題で國際會議招集か
倫敦一部消息通の豫想

【ロンドン二十七日發本社特電】ロンドン一部消息通は植民地問題に關する國際會議の招集が豫想されると注目を惹いてゐる即ち消息通の觀測はヒトラー、ハリファックス會談の中心がドイツ舊植民地返還要求にあつた事は疑ひを容れないが右會談に鑑みドイツの要求を考慮して英佛兩首腦はヴェルサイユ條約の植民地條項改訂に關する特殊の國際會議の招集に同意するかも知れないと云ふにある、外交界一般では右觀測を行き過ぎとし要求が討議されるだらうがドイツに對し植民地市場の門戸開放が行ふか原料購入のクレジットが附與するかせいぜいその位だらうと見てゐる

獨伊兩大使招待會

近衞首相は二十二日正午首相官邸に駐日獨大使ディルクセン氏、駐日伊太利大使アウリッチ兩氏を招待、日、獨、伊防共協定成立祝賀會を催した(寫眞中央は近衞首相其の右左が伊、獨兩大使)

海關問題につき日本に申し入れ
英政府が半公式發表

【ロンドン二十七日發同盟】英國政府は駐日大使クレーギー氏をして英國は海關收入を擔保とする支那公債關係國として支那海關行政の變革については事前に交渉を受くることを必要とするとの立場を堅持するものなることを日本政府に疑念の餘地なく明瞭に通達せしめた旨二十七日半公式に發表した、右に關しては米、佛兩國政府も同一利害關係にある為め今日まで數次に亘り協議を重ね日本政府に對し明瞭な[illegible]をなす事に決したが主眼とする所は元より英國である、英國がかかる手段を執つた理由には支那海關擔保の關係だけでなく英國の對支經濟的地位の擁護として飽くまで海關行政を保守せんとする意志が伏在してゐるが日本が若し[illegible]元利支拂を保證すれば英國は要求[illegible]口實がなくなり問題は相當デリケートとなるだらうと見られてゐる

棉花、綿絲、綿布 最高標準價格
綿業委員會で決定

【東京二十七日發同盟】商工省では二十七日の綿業委員會で棉花、綿絲、綿布の最高標準價格につき協議の結果左の如く決定發表した
[illegible]

硫安販賣會社 創立總會

【東京二十八日發同盟】二十六日の硫安販賣會社創立總會に於いて定款を附議承認を得た外[illegible]氏を選定した

會事

▽開校式 二十九日午後七時半敦睦會館、中央高等學校(日本の[illegible])[illegible]

人事

▲入江鶴三氏(三井物産臺北支店長)二十九日内地より歸臺、夜行にて歸任
▲[illegible]氏 二十八日内地より歸臺
▲[illegible]氏 二十八日來北(鐵道ホテル)

無絃琴

時も時、折も折、改めて兵役法を顧すべしとの輿論が朗を揚げて來た、今度の事變で出征の栄は、身命を賭し死線を乘り越えつつ皇運翼賛を續けてゐる▲國民の負ふ三大義務中の血税たる兵役の義務が[illegible]ものでは無いことは勿論であるが、卜占つて此の兵役の義務を忌避する者[illegible]としてゐることも國民自身の[illegible]、せめて兵役税でも課せられ、幾分でも國家に對し申譯が出來れば気持も安くなるといふわけだ▲それからもう一つ兵役税の聲が叫ばれる理由は、事變以後特に出征軍人等の家族に對し扶助、救済の要望が社會の各方面から起つて來、軍事扶助法の以外に於て出來るだけ早く豐にしたいとの聲が高くなつてゐるので、此資金に充てるためにも兵役税でも設けて見たら……との意向が動いてゐるやうだ、昔は一百五十円出す[illegible]

その日その日

○ 南京を中心に、附近一帶は激戰の雨、地上の兵も亦た揚子江の彼方で首都めがけて殺到——
○ いよく首都攻防戰の本舞台に入る、勝利と和平と聲援との舞台なる展開が待望される
○ 北京占據の跡には、決つて反共反國府の自治政府が成立、離れゆく支那民心の自然的[illegible]
○ 斡介石が未だ頼りにしてゐる日本の外交官がある、これだから彼もナマ半かな結末しか得られない
○ ソ聯が、スペインへチョッカイかけるつもりで支那へ手を伸ばしたら大變なこと、ソレとコレとは四園の事情がテンで違ふ
○ 南風ではずーつで無しに、ソ聯の赤い風ではずである、この世界を吹く風の色を見るが宜い
○ 色々と差し替へては大臺構まる英國の援支物資、扇子に乘り過ぎると往生しようぞ
○ 台灣の"強化"に反響が來て、パルプその他、"時の物"に乘つたものが續々出現、移つ、移る
○ 今後の"對岸"は、[illegible]だけで無く、長山島と[illegible]

浮標のごとき女 (149)
尾崎士郎作　梁川剛一畫

悲しき人々(一八)

薬壜を載せた小さい机の前に若い看護婦が扉の方に背を向けて立つてゐる。

「やあ、來てくれたね」

桑田はうす眼をあけてうれしさうに木谷の顔を見た。

「酒を飲んで、へべれけに醉つぱらつてみたのが不可なかつたんだよ」

やつと聞きとれるほどの聲さへない聲であつたがベッドに近づいた木谷の手を彼はなつかしさうに握りしめた。

「——會ひたかつたよ、君に」

酒を匂はせながら苦しさうに喘ぐのであつた。

「どうしてお酒なんか飲んだんですか？」

「飲まずにゐられなかつたんだよ——[illegible]この數年來こつそり胸の底に秘つておいた「永遠の女性」の幻影が、たつた一瞬間の間に壞れてしまつたといふわけさ」

「だけど——貴方の表面の中に生きてゐる女の像はあんなに美しいぢやありませんか」

「僕もさう考へることによつて自分を慰めてゐたんだがね。しかし今は醒めかけなければならなくなつてゐるんだ——これから先の僕に果して自分の藝術を支へて行く力があるかどうか」

醉者のやうに言つて彼は眼を閉ぢてしまつた。

そのとき扉を開けて看護婦が出ていつたのである。入れ違ひに三重子が足音を忍ばせて這入つてきた。

「桑田さん」

木谷は腹の底からしぼりだすやうな聲で言つた。

「僕、貴方に紹介したい人があるんです」

「僕に？」

木谷はうしろに立つてゐる三重子の方を振りかへつて

「どうぞ」

と言ひながら席を譲つた。

ほうつと眼をひらいた桑田の視野の中に三重子の顔が明るくうかびよつたのである。心の遠近法が亂れて——彼はしばらく遠い記憶をまさぐるやうにうつとりと見つめてゐたが、その顔にはみるみるうちに險しい表情が浮んできた。

「君は——君は誰です？」

こみ上げてくる氣持をおさへて相手をしつかり胸の上で組合せてゐる桑田の顔を上から覗きこんでゐる三重子の眼は何時の間にか濡れてゐた。

「わたし、わたし、やつと今になつて本當のことがわかりましたの——せめてそのことだけでも貴方にお傳へしようと思つて」

後ろに木谷が立つてゐるといふことなどは少しも邪魔にならないほど切迫した思ひで、そのまま寢台の前に膝まづいてしまつたのである。

「何を言ふんです。君は？」

彼女の顔とすれすれに向ひ合つた瞬間、桑田の心からは、[illegible]激怒と悔悟の感情が、かすれるやうに消えていつた。胸の中で出會つたときの、あの[illegible]感情よりも不思議に數年前の懐しい思ひ出だけが浮んでくるのであつた。

「僕がそんなに可哀相に見えるんですか、あなたの眼には？」

聲が途切れたとき、三重子は思はず寢臺の方へずつと上體を乗せかけながら

「何故そんなことを仰言るんです——わたし若しお會ひできなかつたらそれでもいいと思つてゐたのよ、ただ自分がどんな思ひで暮してきたかといふことをお話したかつただけなの」

「しかし、今そんなことを言つたところで、どうにも仕方がないでせう。それよりも早く貴方の御主人の處へお歸りになつたらどうです」

「御主人ですつて——」

一途に何物かを思ひつめてゐる三重子の眼は次第に美しい輝きを帶びてきた。

「今の私には、御主人なんか、何處にも居やしません」

氣がついてみると何時の間に出て行つたのか、木谷の姿は部屋の中から見えなくなつてゐた。

臺灣日日新報 夕刊
十一月二十八日
夕刊定價一部二錢
發行兼編輯人 佐々木 ……
發行所 臺北市 臺灣日日新報社
基隆支局 臺中支局 臺南支局 花蓮港支局 大阪支局 東京支局

銘酒 楓白鹿

日ソ間の重大問題

ソ聯の非文明的な不當行爲頻發
日本が注意喚起

【東京二十八日發同盟】外務當局は二十七日在京ソ聯大使館に對し最近續發するソ聯の文明國とは認め難い不當行爲につき左の如く注意を喚起すると共に其の善處方を嚴重要請した要旨左の通り

一、浦鹽帝國總領事館においては杉下總領事以下近來病人續出しつゝあるがソ聯人醫師は帝國總領事館への往診は不可なりとて來訪せず、外交代表を通じて交渉するも必要に應じて醫師を得る如き極めて困難なり、斯の如きは誠に人道上由々しき重大問題と云ふべく、外務省は獨り浦鹽のみならず、其他の地において最善の醫療施設が帝國臣民の爲め適時提供せらるるに至るやう在京ソ聯大使館の配慮方を要請するものなり

一、東京にて休暇中なりし廣岡副領事は杉下總領事の病狀が一日も早く歸任を必要とするに至れる爲め急遽歸任する事となり在京ソ聯大使館に必要なる手續きを依頼したところ、同副領事は既にソ聯入國査證を有し居り單に期限の延長を必要とするのみなりしに拘らず、同大使館は本國に請訓中なりとて延長を許可せず、外務省より前記緊急の事情を說明して特に便宜の取計ひ方を依頼したるも之に應ぜず、爲めに廣岡副領事は廿六日敦賀發の便船にて出發する事不可能となれるが、外務省は右につき遺憾の意を表すると共に次便船には必らず間に合ふやう手續き方を依頼するものなり

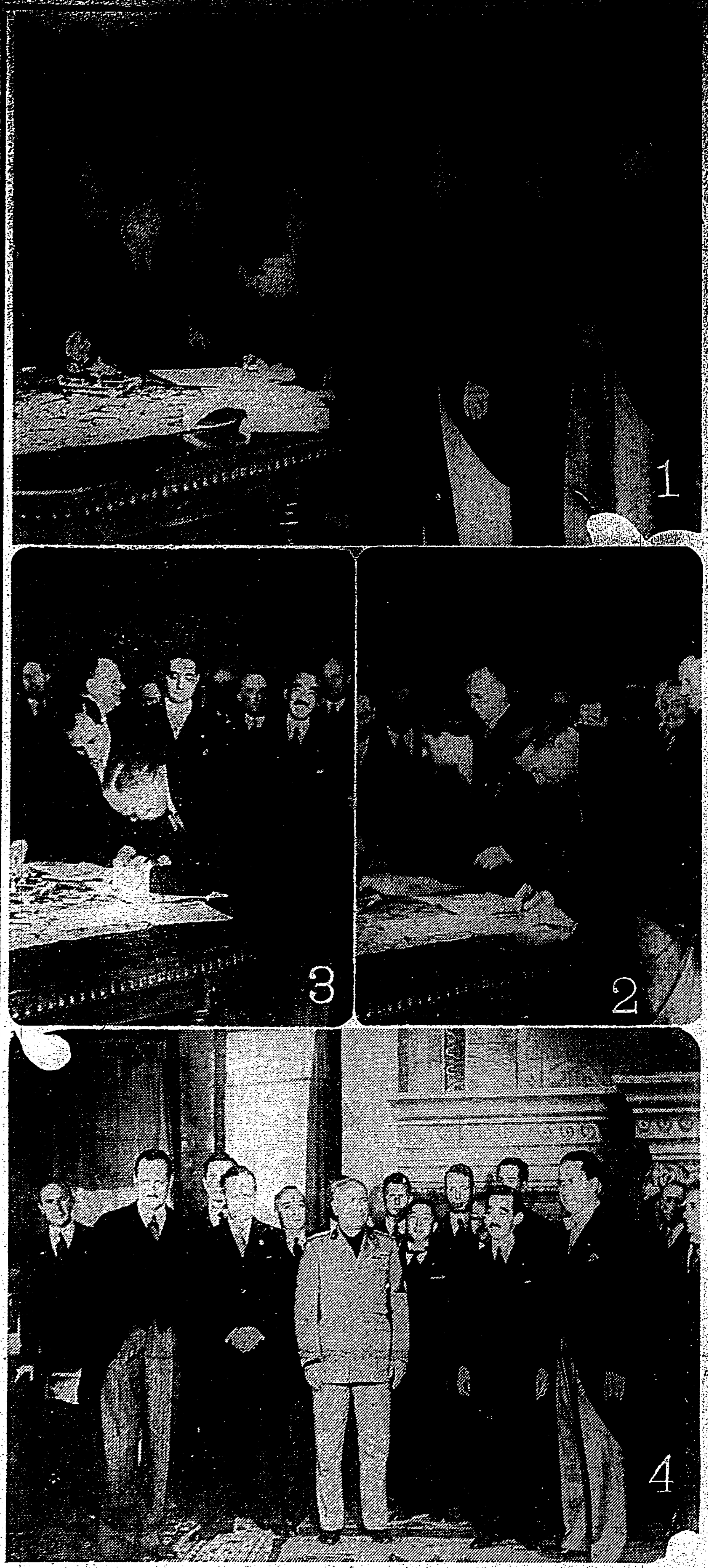
一、在浦鹽帝國總領事館は水道敷設方に關し數年來ソ聯官憲と交渉中なるも容易に埒明かず、已むなく飲用水は支那人水賣りより購入し居るところ十一月二十日頃より同支那人は總領事館への水の供給を拒絕するに至れるを以て同館より同館外交代理に對し更に交渉せる結果漸やく數日中に總領事館に水道を敷設するやう斡旋すべしと述べたる趣きなり、帝國外務省は右約束通り近く與ふ限り速かに水道が合理的經費にて敷設せらるるやう在京ソ聯大使館の配慮方を要請す

ソ聯側が新提案
我方極度に憤慨
漁業條約改訂に支障

【東京二十八日發同盟】日ソ漁業條約改訂交渉は暫定協定の失效前にして我方数次の正式調印督促に依り漸く情勢の好轉を傳へられつつあつたところ、其の後の情報に據ればソ聯側は昨年十月假調印を了した改訂條約に對しては一ケ年を經過せる諸般の事情の變化に依り正式調印は同意し難い從つて現在の情勢下に更めて改訂交渉の商議に入る用意を有し且下立案を急いでゐるので近くこれを提示する方針である旨の申出でを爲した由で、ソ聯側の新提案を繞つて今後の事態は頗る注目されるに至つたが改訂交渉に對し正式調印即時締結の主張の下に當局を督促し來つた露領水產組合はこの情報に極度に憤慨し昨年十月假調印を了した改訂條約は當時我方としては甚だ不滿足なる條件を忍んだものであり、今次のソ聯側新提案が假令如何なる條件を提示するにせよ改訂條約が既に帝國政府の調印を經た今日斷じて新提案交渉には應じ難いとの見解の下に飽くまで正式調印の既定方針を堅持し、來月一日緊急評議員會を招集し、こ……

輪渡碼頭を占據
憲兵分隊長が指揮して

【上海二十七日發同盟】浦東特務部二十七日發表、憲兵分隊長の指揮の下に二十六日午前四時三十分市政府經營にかかる輪渡碼頭を占據した



三國防共協定調印式

ミコンテルンの赤化工作に對抗する防共協定に日獨に次いで伊太利の參加は十一月六日に締結され、その調印式は同日午前十一時ローマ外務省に於て行はれた(1)は調印の中心で伊國外相チアノ伯、堀田大使、リッペントロップ獨大使(2)堀田大使の調印(3)リッベントロップ獨大使の調印(4)調印後ヴェネチヤ宮殿に於けるムッソリーニ伊首相を中心として(左)リッベントロップ獨大使(右一人おいて)堀田大使・チアノ伊外相

斷末魔の南京
凄慘な病傷兵の呻き聲

【ニューヨーク二十七日發本社特電】ニューヨークタイムスの二十七日南京特電は斷末魔にあへぐ南京の慘狀を左の通り報道してゐる

武官を除く國府の首腦連は既に全部漢口へ引揚げて了つた、之は潰敗果敢なる日本軍の進擊の前には支那軍の抵抗も長くは持ちこたへられぬだらうと認めた事を物語るものだ、毎日二千乃至三千の負傷兵が前線から後送され南京市内は之が爲め大混亂を呈してゐる、負傷兵の大部分は殆ど砲彈或は爆彈の破片でやられたもので、機關銃彈による負傷者は至つて少く、小銃による負傷者に至つては全く皆無と云つてよい有樣で負傷兵達は口々に日本軍の砲彈爆彈の物凄い威力を物語り、日本軍の姿は全然見えないのに砲彈の雨が降りそそぐので手も足も出ないとこぼしてゐる、常州、無錫、吳興等の病院から運び出されて來た負傷兵達は下關停車場のプラットホームに放置され寒風と冷雨にさらされ食料も手當もなく續々と死亡して行くと云ふ地獄繪を現出してゐるが、國府側の手當がない爲め彼等の呻き聲は政府先にも聞えず慘狀は全く目も當てられない

桑名少將離臺
官民多數の見送裡に

〇〇〇に榮轉した前澎湖島要塞司令官桑名少將は古野軍司令官をはじめ官民多數の見送り裡に二十八日午前八時十三分臺北驛發同日出帆の高砂丸で赴任の途についた

河村社長歸社

河村本社長は社用にて上京中のところ二十八日基隆入港の富士丸にて歸社

木炭使用奬勵
ガソリンの代りとして

【大阪二十七日發本社支局特電】石油ガソリン燃料の缺乏を愛へられる今日、大阪府にて第四師團大阪營林局等と協力して是に木炭を以て代へんと運動となつて居る即ち大阪府下には飛行機、水場機等使用で使用するガソリンは年十萬ガロンに達し、その他數萬台の円タク、バス、トラック等の使用するのを合すれば實に夥しいので來月始めより講演に實演に木炭使用奬勵に乘出すこととなり期待されて居る

植民地問題で國際會議招集か
倫敦一部消息通の豫想

【ロンドン二十七日發本社特電】ロンドン一部消息通は植民地問題に關する國際會議の招集を豫想し注目を惹いてゐる即ち消息通の觀測はヒトラー、ハリファックス會談の中心がドイツの植民地返還要求にあつた事は疑ひを容れないが右會談に鑑みドイツの要求を考慮して英佛兩國首腦はヴェルサイユ條約の植民地條項改訂に關する特殊の國際會議の招集に同意するかも知れないと云ふにある、外交界一部では右觀測を行き過ぎとし兎も角佛國側では當然ドイツの植民地要求が討議されるだらうがドイツに對し植民地市場の門戶開放を行ふか原料購入のクレジットを附與するかせいぐの所だらうと見てゐる

獨伊兩大使招待會

近衛首相は二十二日正午首相官邸に駐日獨逸大使ディルクセン氏、駐日伊太利大使アウリッチ兩氏を招待し日獨伊防共協定成立祝賀午餐會を催した(寫眞中央は近衛首相其の右左が伊、獨兩大使)

硫安販賣會社創立總會

【東京二十八日發同盟】二十六日の硫安販賣會社創立總會において定款各條項承認を得た後役員を選定した

海關問題につき日本に申し入れ
英政府が半公式發表

【ロンドン二十七日發同盟】英國政府は駐日大使クレーギー氏をして英國は海關收入を擔保とする支那公債關係國として支那海關行政の變革については事前に交渉を受くることを必要とするとの主張を堅持するものなることを日本政府に疑念の餘地なく明確に通告せしめた

二十七日半公式に發表した、右に關しては米、佛兩國政府も同一利害關係にある爲め今日まで數次に亙り協議を重ね兩國とも日本政府に明確な意思表示を爲すに決したが主要債權者は元より英國である、英國がかかる手段を執つた理由には單に海關擔保の債權だけでなく英國の對支貿易地位の擁護として飽くまで海關行政を保存せんと云ふ決意が伏在してゐるが日本が若し諸外國の海關擔保の元利支拂保證を取れば英國は支那海關日本に統制を入れる口實がなくなり問題は相當デリケートとなるだらうと見られてゐる

棉花、綿絲、綿布 最高標準價格
綿業委員會で決定

【東京二十七日發同盟】商工省では二十七日の綿業委員會で來週中旬以降の棉花、綿絲、綿布の最高標準價格につき協議の結果左の如く決定發表した

△棉花 ……

……

人事

▲入江勳二氏(三菱相談役支店長)二十八日內地より歸臺、夜行にて赴任
▲吉田……氏(……)二十八日內地より歸臺
▲……氏(……)二十八日來北(鐵道ホテル)

會事

▽……二十九日午後七時半より……

無絃琴

時も時、折も折、改めて兵役を説くべしとの議論が頗る盛んである……國民の負擔が……

その日その日

〇 南京を中心に、附近一帶は懷舊の雨、地上の惡化も其河の勢ひで首都めがけて殺到——

〇 いよ〱首都攻防戰の本舞台に入る、陥落も刻々と身と……

〇 北支に……の自治政府が成立、……支那民心の自然的……

〇 防共協定を……にしてゐる日本の外交官がある、……

〇 ソ聯が、スペインへチョッカイかけるつもりで……

〇 南風がはず——……

〇 色々と……

〇 台灣の“緑化”に……

〇 今後の“對岸”は……

浮標のごとき女 (149)
尾崎士郎 作
梁川剛一 畫

悲しき人々(一八)

……桑田は……い瞬間的な表情で……力に……を向けて立つてゐる。
「やあ、來てくれたね」
桑田はうす眼をあけてうれしさうに木谷の顏を見た。
「酒を飲んで、へべれけに醉つぱらつてみたのが不可なかつたんだよ」
やつと聞きとれるほどの弱々しい聲であつたがベッドに近づいた木谷の手を彼はなつかしさうに握りしめた。
「——會ひたかつたよ、君に」
酒を飲はせながら苦しさうに喘ぐのであつた。
「どうしてお酒なんか飲んだんですか」
「飲まずにゐられなかつたんだよ——……」
亂れて——彼はしばらく遠い記憶をさぐるやうにうつとりと見つめてゐたが、その顏にはみる〱うちに暗い表情が浮んできた。
「君は——君は誰です?」
こみ上げてくる氣持をおさへて……

……

臺灣日日新報 夕刊

十二月二十八日

夕刊定價一部二錢

編輯兼發行人 佐々木 ... 發行所 臺灣日日新報社 臺北市榮町四丁目 ... 基隆支局 臺中支局 臺南支局 花蓮港支局 大阪支局 東京支局

銘酒 福白鹿

ソ聯の非文明的な不當行爲頻發

日本が注意喚起

【東京二十八日發同盟】外務當局は二十七日在京ソ聯大使館に對し在支那するソ聯の文明国とは認め難い不當行爲につき左の如く注意を喚起すると共に此種の態度改善方を嚴重要請した要旨左の通り

一、浦鹽帝國總領事館においては杉下總領事以下近來病人續出しつゝあるがソ聯人醫師は帝國總領事館への往診は不可なりとて來訪せず、外交代表を通じて交渉するも必要に應じて醫師を得る如き極めて困難なり、斯の如きは誠に人道上由々しき重大問題と云ふべく、外務省は獨り浦鹽のみならず、其他の地において最善の醫療施設が帝国臣民の為め迅速提供せらるるに至るやう在京ソ聯大使館の配慮方を要請するものなり

一、東京にて臨時中なりし蘭國副領事は杉下總領事の病狀が一日も早く歸朝治療を必要とするに至れる為め急遽赴任する事となり在京ソ聯大使館に必要なる手續きを依頼したところ、同副領事は既にソ聯入國査證を有し居り單に期限の延長を必要とするのみなりしに拘らず、同大使館は本國に請訓中なりとて延長を許可せず、外務省より前記緊急の事情を説明して特に便宜の取計ひ方を依頼したるも遂に應ぜず、為めに同副領事は廿六日敦賀發の便船にて出發する事不可能となれるが、外務省は右につき抗議すると共に次便船には必らず間に合ふやう手續き方を依頼するものなり

一、在浦鹽帝國總領事館は水道敷設方に關し數年來ソ聯官憲と交渉中なるも容易に埒明かず、已むなく飲用水は支那人水賣りより購入し居るところ十一月二十日頃より同支那人は總領事館への水の供給を拒絶するに至れるを以て同館より同地外交代理に對し更に交渉せる結果漸やく數日中に總領事館に水道を敷設するやう斡旋すべしと述べたる趣きなり、帝国外務省は右約束通り近く與ふ限り速かに水道が合理的經路にて敷設せらるるやう在京ソ聯大使館の配慮方を要請す

ソ聯側が新提案

我方極度に憤慨

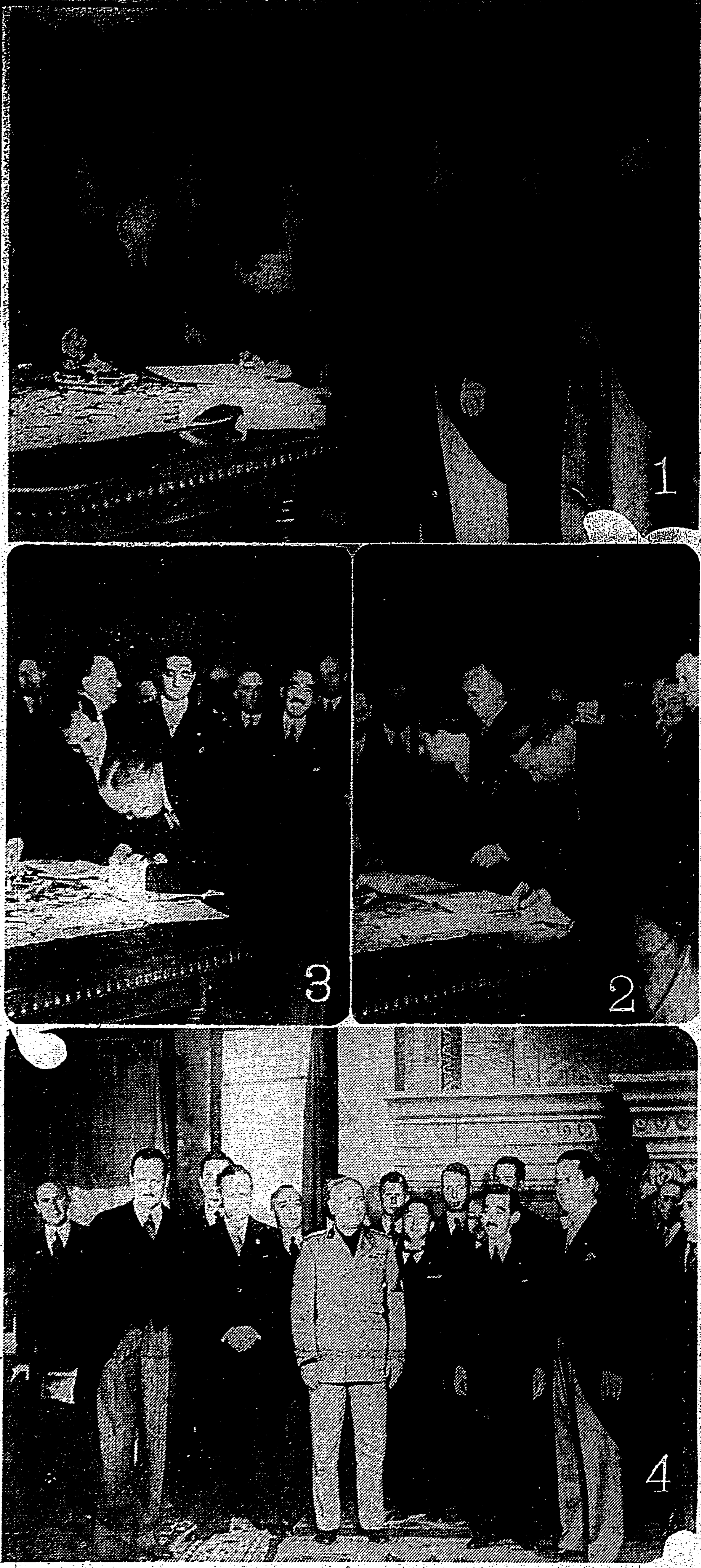
漁業條約改訂に支障

【東京二十八日發同盟】日ソ漁業條約改訂交渉は暫定協定の失效前にして我方數次の正式調印督促に依り漸く情勢の好轉を傳へられつゝあつたところ、其の後の情報に據ればソ聯側は昨年十月假調印を了した改訂條約に對しては一ケ年を經過せる諸般の事情の變化に依り正式調印は同意し難い從つて現在の情勢下に更めて改訂交渉の商議に入る用意を有し且下立案を急いでゐるので近くこれを提示する方針である旨の申出でを為した由で、ソ聯側の新提案を繞つて今後の事態は頗る注目されるに至つたが改訂交渉に對し正式調印即時締結の主張の下に當局を督促し來つた露領水産組合はこの情報に極度に憤慨し昨年十月假調印を了した改訂條約は當時我方としては甚だ不滿足なる條件を忍んだものであり、今次のソ聯側新提案が假令如何なる條件を提示するにせよ改訂條約が既に兩國政府の假調印を經た今日斷じて新提案交渉には應じ難いとの見解の下に飽くまで正式調印の既定方針を堅持し、來月一日緊急評議員會を招集し、こ...

輪渡碼頭を占據

憲兵分隊長が指揮して

【上海二十七日發同盟】江灣憲兵分隊長の指揮の下に二十七日午前四時三十分市政府經營にかかる輪渡碼頭を占據した



三國防共協定調印式

ミコテルン赤化工作の防止を目的とする日獨伊三國防共協定調印式は十一月六日伊國外務省に於て擧行された、寫眞は本社ローマ特派員が此の歷史的光景を寫したもので(1)調印の中に關する我が堀田大使(2)同... 撮影、ムッソリーニ伊首相を中心として(左)リッベントロップ獨大使(右一人おいて)堀田大使・チアノ伊外相

斷末魔の南京

凄慘な病傷兵の呻き聲

【ニューヨーク二十七日發本社特電】ニューヨークタイムスの二十七日南京特電は斷末魔にあへぐ南京の慘狀を左の通り報道してゐる

武官を除く國府の首腦連は既に全部漢口へ引揚げて了つた、之は神速果敢なる日本軍の進撃の前には支那軍の抵抗も長くは持ちこたへられぬだらうと認めた事を物語るものだ、毎日二千乃至三千の負傷兵が前線から後送され南京市內は之が為め大混亂を呈してゐる、負傷兵の大部分は殆ど砲彈或は爆彈の破片でやられたもので、機關銃彈を受けた者少く、小銃彈による負傷者に至つては全く皆無と云つてよい有樣で負傷兵達は口々に日本軍の砲彈爆彈の物凄いばかりの威力を物語り、日本軍の姿は全然見えないのに砲彈の雨が降りそそぐので手も足も出ないとこぼしてゐる、常州、無錫、吳興等の病院から運び出されて來た負傷者達は下關停車場のプラットホームに放置され寒風と冷雨にさらされ食料も手當もなく續々と死亡して行くと云ふ地獄繪を現出してゐるが、醫師の手當がない為め彼等の呻き聲は聞くに堪へず、其の慘狀は全く目も當てられない

桑名少將離臺

官民多數の見送裡に

〇〇〇に榮轉した前澎湖島要塞司令官桑名少將は古莊軍司令官をはじめ官民多數の見送り裡に二十八日午前八時十三分台北驛發當日出帆の高砂丸で赴任の途についた

河村社長歸社

河村本社長は社用にて上京中のところ二十八日基隆入港の富士丸にて歸社

木炭使用獎勵

ガソリンの代りとして

【大阪二十七日發本社支局特電】石油ガソリン燃料の缺乏を憂へられる今日、大阪府にて第四師團大阪營林局等と協力して是に木炭を以て代へんと運動となつて居る、即ち大阪府下にては飛行機、水陸機等で使用するガソリンは年十万ガロンに達し、その他數万台の円タク、バス、トラック等の使用するのを合すれば實に驚くべき數量となるので來月初めより講演に實演に木炭使用の獎勵に乘出すこととなり期待されて居る

植民地問題で國際會議招集か

倫敦一部消息通の豫想

【ロンドン二十七日發本社特電】ロンドン一部消息通は植民地問題に關する國際會議の招集に對し注目を表してゐる即ち消息通の觀測はヒトラー、ハリファックス會談の中心がドイツ植民地返還要求にあつた事は疑ひを容れないが有望視に就みドイツの要求を考慮して英佛兩國首腦はヴェルサイユ條約の植民地條項改訂に關する特殊の國際會議の招集に同意するかも知れないと云ふにある、外交界一部では右觀測を行き過ぎとし英佛は當然ドイツの植民地要求が討議されるだらうがドイツに對し植民地市場の門戶開放を行ふか原料購入のクレジットを附與するかさせいぐの所だらうと見てゐる

獨伊兩大使招待會

近衛首相は二十七日午後官邸に駐日獨伊兩大使ディルクセン氏、駐日伊太利大使アウリッチ兩氏を招き晩餐會を催した(寫眞中央は近衛首相兩氏の右左が伊、獨兩大使)

海關問題につき日本に申し入れ

英政府が半公式發表

【ロンドン二十七日發同盟】英國政府は駐日大使クレーギー氏をして英國は海關收入を擔保とする支那公債關係國として支那海關行政の變更については事前に交渉を受くることを必要とするとの主張を堅持するものなることを日本政府に疑念の餘地なく明確に通達せしめた

二十七日半公式に發表した、右に關しては米、佛兩國政府も同一利害關係にある為め今日まで數次に亙り協議を重ねて同國も日本政府に明確なる意思表示を為すに決した、が本問題は元より英國である、英國がかかる手段を執つた背後には單に海關擔保の關係だけでなく英國の對支特殊地位の擁護として飽くまで海關行政を協守せんとする意圖が伏在してゐるが日本が若し關稅率を變更し日本に有利を入れれば英國は支那日本に... 口實がなくなり問題は相當デリケートとなるだらうと見られてゐる

硫安販賣會社創立總會

【東京二十八日發同盟】二十六日の硫安販賣會社創立總會において定款を承認役員を選任...した

棉花、綿絲、綿布最高標準價格

綿業委員會で決定

【東京二十七日發同盟】商工省では二十七日の綿業委員會で來週中の棉花、綿絲、綿布の最高價格につき協議の結果左の如く決定發表した

△棉花最高價格 受渡月内地 ... 四円五十錢 ... [illegible]

△綿絲最高標準價格 ... [illegible]

△綿布最高標準價格 ... [illegible]

人事

▲入江勝二氏(三菱總務部長)二十八日内地より歸任

▲石田清一氏(新竹州地方課長)二十八日内地より歸任

▲近藤明氏(台灣總督府...)二十八日來北(鐵道ホテル)

會事

▽南總督 二十九日午後七時半敎育會館、中南部視察役(日本の...)...

無絃琴

時も時、折も折、改めて兵役税を課すべしとの議論が叫ばれ出して來た。今度の事變で出征の意氣は、身命を賭して死線を乘り越えつつ聖戰の遂行を續けてゐる▲國民の愛い兵役の義務が誰か如何円位の兵役税で換算できるものであるまいことは勿論であるが、と言つて此の兵役の義務を免ぜられ唯安閑としてゐることも國民自身が許されない、せめて兵役稅でも課せられ、幾分でも國家に對し報ひが出來れば氣持も安くなるといふわけだ▲それからもう一つ兵役稅の要が叫ばれる理由は、事變以後特に出征軍人等の家族に對し扶助、救濟の要望が社會の各方面から起つて來、軍事扶助法の以外に於て出來るだけ厚く盡したいとの聲が高くなつてゐるので、此種の目的に資するためにも兵役税でも設けて見たら……との意向が動いてゐるやうだ、昔は二百五十円出すと兵役の義務が免除された時もあつたさうだ▲もう一つの思ひ付きの税は"子無し税"である、子供の無い親に一定の税を課さうといふのだ▲近頃の親は子供の養育や教育に手がかかるから子供の無い親に課税すると、子供の無い親にも負担して貰ひ度いしくらゐの口實で人口…… [illegible]

その日その日

○ 南京を中心に、附近一帶は敵戰の雨、地上の兵も江と揚子江の叫びで首都めがけて殺到——

○ いよいよ首都攻防戰の本舞台に入る、陸鷲と海鷲と銃後との餘かなる展開が待望される

○ 北平占據の跡には、決して反共反國府の自治政府が成立、離れゆく支那民心の自然的傾斜

○ 獨伊を米だ頼りにしてゐる日本の外交官がある、これだから低いナマ半かな結果しか得られないと

○ ソ聯が、スペインへチョッカイかけるつもりで支那へ手を伸ばしたら大變なこと、ソレとコレとは四海の事情がアテンで遊ぶ

○ 南風なはず——で無しに、ソ聯の赤い風吹はずである、この世界を吹く風の色を見るが宜い

○ 色々と差し替へては大騒ぎする蘭國の援支戰術、扇子に乘り過ぎると化けて出るぞ

○ 台灣の"綠化"に與望が來て、ベルブその他、"時の潮"に乘つたものが續々出現、移つ、移る

○ 今後の"對岸"は、發展、開拓だけで無く、長い目で、正に台灣の成長

浮標のごとき女 (149)

尾崎士郎作

梁川剛一畫

悲しき人々(一八)

……乱れて——彼はしばらく遠い記憶をまさぐるやうにうつとりと見つめてゐたが、その顏にはみるみるうちに暗い表情が浮んできた。

「君は——君は誰です?」

こみ上げてくる氣持をおさへて相手をしつかり胸の上で組み合せてゐる桑田の顏を上から覗きこんでゐる三重子の眼は何時の間にか濡れてゐた。

「わたし、わたし、やつと今になつて本當のことがわかりましたの——せめてそのことだけでも貴方にお傳へしようと思つて」

後ろに木谷が立つてゐるといふことなどは少しも氣にならないほど切迫した思ひで、そのまま寢台の前に跪づいてしまつたのである。

「何を言ふんです、君は?」

彼女の顏とすれすれに向ひ合つた瞬間、桑田の心からは一瞬すべて融を擱めてゐた激怒と悔侮の感情が、かすれるやうに消えていつた。酒の中で出會つたときの、あの翳満つた姿態よりも不思議に數年前の懷しい思ひ出だけが浮んでくるのであつた。

「僕がそんなに可哀相に見えるんですか、あなたの眼には?」

聲が途切れたとき、三重子は思はず病室の方へずつと上體を乘せかけながら

「何故そんなことを仰言るんです——わたし若しお會ひできなかつたらそれでもいいと思つてゐたのよ、ただ自分がどんな思ひで暮してきたかといふことをお話したかつただけなの」

「しかし、今そんなことを言つたところで、どうにも仕方がないでせう。それよりも早く貴方の御主人の處へお歸りになつたらどうです」

「御主人ですつて——」

一途に何事かを思ひつめてゐる三重子の眼は次第に美しい輝きを帶びてきた。

「今の私には、御主人なんか、何處にも居やしません」

氣がついてみると何時の間に出て行つたのか、木谷の姿は部屋の中から見えなくなつてゐた。

い醫療看護婦が扉の方に背を向けて立つてゐる。

「やあ、來てくれたね」

桑田はうす眼をあけてうれしさうに木谷の顏を見た。

「酒を飲んで、へべれけに醉つぱらつてゐたのが不可なかつたんだよ」

やつと聞きとれるほどの聲ではない聲であつたがベッドに近づいた木谷の手を彼はなつかしさうに握りしめた。

「——會ひたかつたよ、君に」

酒を顏はせながら苦しさうに咳くのであつた。

「どうしてお酒なんか飲んだんです?」

「飲まずにゐられなかつたんだよ——きかしたんだがこの數年來こつそり胸の底に藏つておいた『永遠の女性』の幻影が、たつた一瞬間の間に壞れてしまつたといふわけさ」

「だけど——貴方の表面の中に生きてゐる女の彼はあんなに美しいぢやありませんか」

「僕もさう考へることによつて自分を慰めてゐたんだがね。しかし今は慰められもなければ夢もなくなつてゐるんだ——これから先の僕に果して自分の藝術を支へて行く力があるかどうか」

獨言のやうに言つて考へ込むやうに眼を閉ぢてしまつた。

そのとき扉を開けて看護婦が出ていつたのである。入れ違ひに三重子が足音を忍ばせて這入つてきた。

「桑田さん」

木谷は桑の匠からしぼりだすやうな聲で言つた。

「僕、僕方に何か話したい人があるんです」

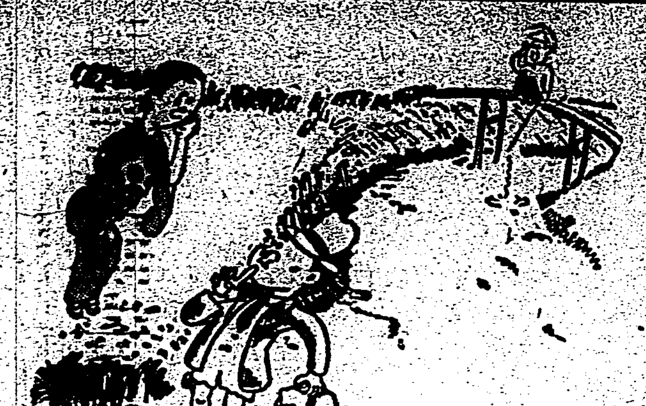
「僕に?」

木谷はうしろに立つてゐる三重子の方を振りかへつて

「どうぞ」

と言ひながら體を讓つた。

はうつと眼をひらいた桑田の視野の中に三重子の顏が明るくうかびよつたのである。心の遠近を...



臺的運河

「あんた、あそこの書を見ればいいぢやないの」
「靜かに靜かに、あの書の上で釣をしてゐるのは坊主さんだよ」

もぐら戰法

泥棒B「兄貴何んだつて塀を越えないで穴を掘るんだい」
泥棒A「なアに、こりや近頃流行の戰法だよ」

チンドン屋さんの新戰術

特派員……決戰型の突撃隊を考へました

トーチカ心臓

(1)「君つきあつてよ」
「まあ、嫌な人…」
(2)「いいぢやないか」
「いやだわよパチン」
(3)「うへツ痛いつ…」
「ホホホ」
(4)「君つきあつてよ」
「まあ、トーチカ心臓ね」

臺日・まんぐわ

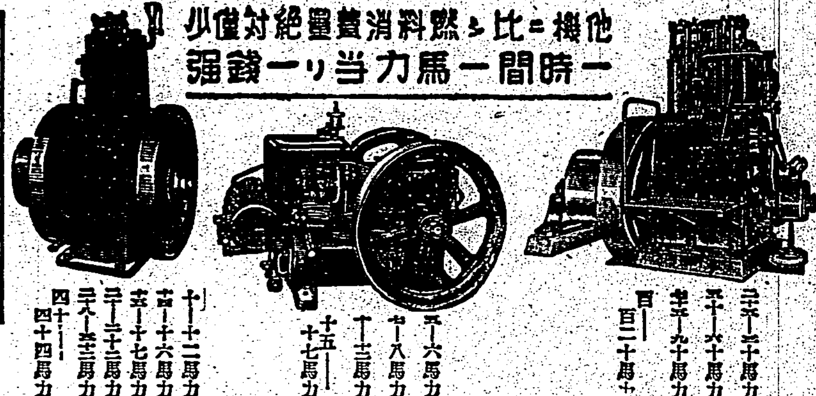
口村幸一編

愛國公債

國府財政部長 孔祥熙曰く
「あゝこれが我が國であれはなア…さても嘆かはしきことあるナ」

ヤンマーヂーゼルエンジン

他機ニ比シ燃料消費量絶對僅少
一時間一馬力當リ一錢強



十一─十二馬力　十四─十六馬力　十六─十七馬力　三十一─三十二馬力　三十八─五十三馬力　四十─四十四馬力
二十一─二十六馬力　十一─十八馬力　十一─十三馬力　十五─十七馬力
二十三─二十三馬力　五十─六十馬力　七十二─九十馬力　百─百二十馬力

內燃機界ノ權威
絶對安全火氣其他準備操作ヲ要セズ

大量製産・在庫豊富

臺北市京町二丁目四五
臺灣總代理店 山岡發動機臺北支店

本社・大阪市北區茶屋町

ろく々の病毒一切 毒掃丸
一刻も早く除きませう

H.30

パピリオクレーム

これ迄のバニシングと原料も製法もまるで違ふ。だから、おなれになるまで、すこし、ご面倒かも知れません。しかし、これが本當なんですから。

これ迄のクリームの半分量で使つて下さい。

A一般用(男小供も) B荒れ性用 各60錢
Cファンデーション化粧下80錢・伊東化學研究所
見本四錢切手デパート有名店ニ有・東京麻布本村町

木炭鋸屑ガス發動機

屑炭小炭で石油重油同様の出力
經費石油の五分の一以下

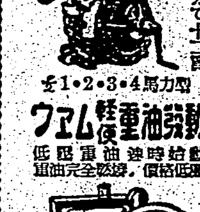
五、八、十、十五
二〇、三〇馬力

營業品目
農工業用諸機械卸專門
石油、重油發動機、ポンプ
籾摺機、脱穀機、噴霧器
精米機、各種製粉機
製麺機、製餡機、製棉機

發賣元 臺北市大和町四ノ八 中央貿易合資會社
代理店 佐土原商會

專賣特許 パワール
小型輕量發動機

四馬力で十二人分
同時作業

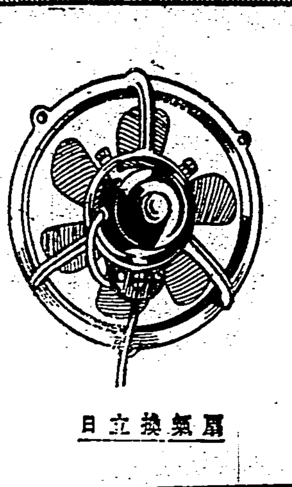


1・2・3・4馬力型
ヴェム 輕便重油發動機

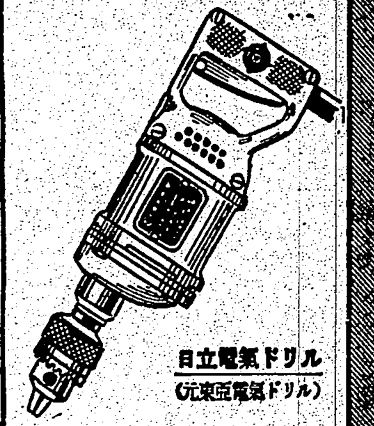
低壓重油逆時始動
重油完全燃焼、價格低廉

五─六馬力　八─十馬力

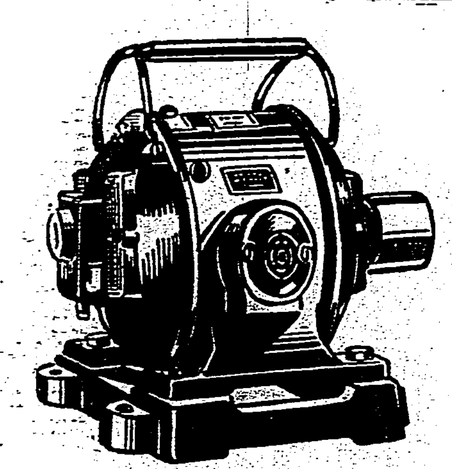
日立製作所
本店 東京・丸ノ内
營業所
大阪市西區土佐堀通一ノ一
福岡市天神町二
大連市山縣通二東拓ビル
京城府古市町四三中央ビル
名古屋市中區南大津町一ノ一
札幌市南二條西十三ノ三─九



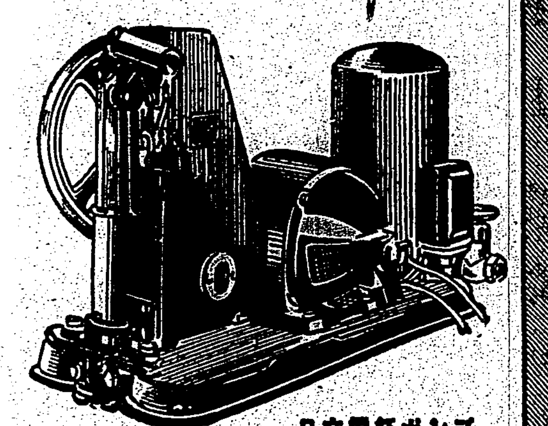
日立換氣扇



日立電氣ドリル
(元東京電氣ドリル)



農事用單相 日立モートル

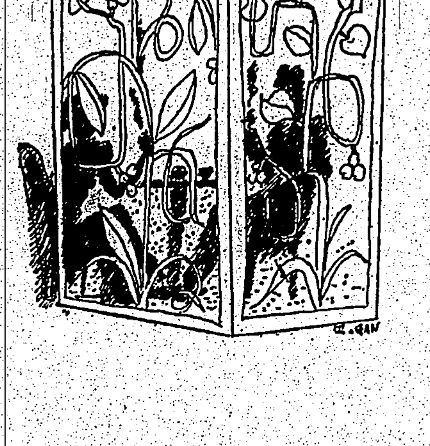


日立電氣ポンプ

●學習に大切な頭の藥 ノーシン●

タバコのみの
齒磨スモカ

見苦しい
は脂つ齒
で
べら
〳〵と自
慢ばなし



優良化粧品
藥店ニアリ
定價十五錢

大阪西淀川區御幣島町 株式會社 壽毛加社

901

明治の菓子

品質・榮養
風味・共に
優良無比！

宮內省御用達
明治製菓株式會社

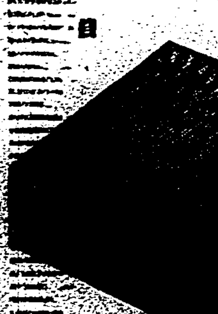
專賣特許 類のない 白粉の素

サワー固形白粉

純無鉛で―
鉛白以上の
この美粧効果！

これは他に類のない固形の白粉です。水さへあれば直ぐ煉白粉にも水白粉にもなり、普通量の三分の一で鮮かなお化粧が出來ます。近代化粧は粉白粉だけといふ樣なお考へを棄て、この冴えた美粧効果を御利用下さい。猛毒さへなければと惜まれた、あの鉛白の素晴しいノリノビを凌駕する健康化粧料が、皆樣の前にあるのです。

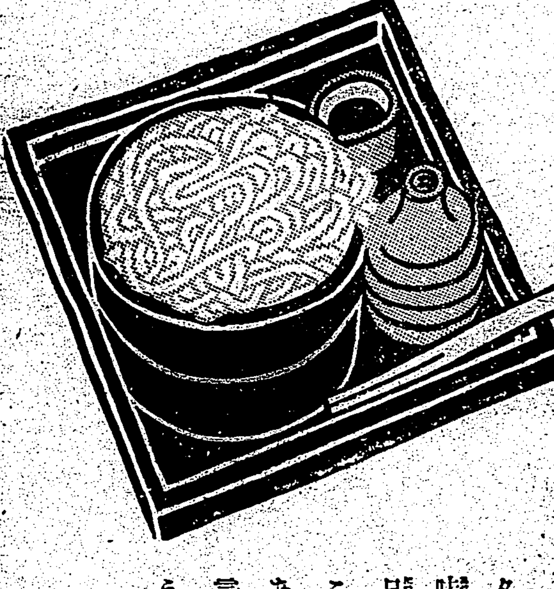
一日十日



白・肌色

1-35

東京・兩國 丸見屋商店 ○ミツワ石鹼本舗



タレに
味の素。
日本の味
こゝに
ありと
言ひたい
うまさ。

味の素

味の素本舗 株式會社 鈴木商店

II-三